# 沼津高専だより

第124号
令和６年３月８日発行
独立行政法人国立高等専門学校機構
沼津工業高等専門学校
〒410-8501 沼津市大岡3600
TEL 055-921-2700　URL https://www.numazu-ct.ac.jp/

「第４回全国高等専門学校ディープラーニングコンテスト」全国４位入賞

高専祭人文字「Okaeri」

サッカー部全国高専体育大会出場

トビタテ！留学JAPAN（短期留学出発報告）

# 目次


☆校長・副校長・校長補佐から（令和５年度総評）
科学と技術で地域と、そして世界とつながる……学校長　岡田哲男……3
できることこそコツコツと……副校長（総務主事）　稲津晃司……3
勉強する目的の再確認……校長補佐（教務主事）　芹澤弘秀……4
コロナ以前へ……校長補佐（学生主事）　佐藤　誠……4
退任のご挨拶……校長補佐（寮務主事）　永禮哲生……5
研究支援・地域連携活動を顧みて……校長補佐（研究主事）　竹口昌之……5
令和５年度を振り返って……校長補佐（専攻科長）　大庭勝久……7
学生自身が持つ力……学生生活支援室長　小林美学……7
令和５年度を振り返って……国際室長　大川政志……8
☆各学科から（令和５年度総評）
新しいスタートに向けて……機械工学科長　新冨雅仁……9
電気電子工学技術で拓く安全安心な未来AI社会……電気電子工学科長　大津孝佳……9
これから社会に出ていくみなさんへ……電子制御工学科長　鈴木静男……10
制御情報工学科の教育内容検討について……制御情報工学科長　鈴木康人……10
2023年度を振り返って……物質工学科長　青山陽子……11
〈新時代の到来〉と教養科目……教養科長　小林美恵子……11
☆部活動
第61回「東海地区国立高等専門学校体育大会」入賞者一覧……12
第３回「東海北陸地区国立高等専門学校体育大会」入賞者一覧……13
☆行事・コンテスト・その他イベント
体育祭：いつもとは違う体育祭を
……体育祭実行委員長　機械工学科３年　熊澤杏司……14
高専祭：Ｒ５年度高専祭「ただいま」
……高専祭実行委員長　電子制御工学科４年　金子桃花……14
知財のTKY（寺子屋）活動報告：㊗知財のTKY『部』に昇格
～設立から９年の歩みと感謝～……知財のTKY（寺子屋）同好会顧問　大津孝佳……15
知財のTKY（寺子屋）の歩み……知財のTKY同好会　電子制御工学科４年　肥田友希……16
第34回全国高等専門学校プログラミングコンテスト：
第34回全国高等専門学校プログラミングコンテスト出場報告
……プロコン同好会顧問　鈴木康人……16
３度目の高専プロコン……プロコン同好会　機械工学科４年　遠藤大祐……17
ロボットコンテスト2023：アイデアを実現する力を身につける
……ロボコン部顧問　青木悠祐……17
技術を身につけ、成長を続ける……ロボコン部部長　電子制御工学科３年　松嶋昂平……18
☆学生会活動について
未曾有の状況を乗り越えて……学生会長　制御情報工学科４年　佐藤羽瑠……18
☆退職教職員から
多くの学生に囲まれて……機械工学科　村松久巳……19
教員生活を振り返って……電気電子工学科　高野明夫……19
退職のご挨拶……電気電子工学科　大津孝佳……20
感謝・感謝・感謝……電気電子工学科　望月孔二……20
進化できない老兵……電子制御工学科　牛丸真司……21
かけがえのない10年の日々……教養科　成田智子……21
☆卒業生・修了生から
人とのつながり―人を頼ることのススメ……機械工学科５年　村山暢篤……22
出会えた人に感謝を……電気電子工学科５年　秋山はやて……22
高専７年間の振り返り……環境エネルギー工学コース２年　村尾　響……23
☆学生の研究活動（2023.4.1～2024.3.31）……24
☆令和５年度卒業生・修了生進路先一覧……30
☆教育後援会から
大海原へ漕ぎ出すあなたへ「独（ひと）りじゃないよ」……教育後援会会長　山口直子……33
☆同窓会から
同窓生の現役学生に対する思い……同窓会会長　長岡善章……34
☆お知らせ
令和６年度授業料免除及び徴収猶予等について……35
各種奨学金について……35
令和６年度（令和６年４月～令和７年３月）行事予定表……37
沼津高専意見箱について……37

# 校長・副校長・校長補佐から（令和５年度総評）

## 科学と技術で地域と、そして世界とつながる

学 校 長
**岡　田　哲　男**

高専のミッションの一つに地域貢献があります。教員が行う地元企業との共同研究、卒業生の地元への就職、学生の皆さんが授業や研究の中で地元自治体や企業の課題解決を目指す取り組み、一般にこれらが典型的な地域貢献と認識されています。地元自治体や企業の課題への取り組みでは、成果に興味をもったり喜んだりしてくれる人の顔が良く見えます。その人たちと価値を共有できる点でやりがいを感じるのは確かでしょう。ところで、「地域」とは一体何でしょうか。日本を基準にすれば、静岡県も沼津市も「地域」、世界を基準にすれば、アジアも日本も「地域」です。しかし、沼津高専の場合、静岡県東部、あるいは静岡県を地域と捉え、そこに直接寄与することを地域貢献と考えることが多いと思います。ただ、地域に壁や境目はありません。価値のある地域貢献は、狭い地域だけに留まらず、世界あるいは人類社会全体につながり、広がっていきます。

前回の「沼津高専だより」で、私は理学分野で研究してきたことを述べました。私の専門の化学では基礎と応用、理学と工学の間にそれほど大きな違いがありません。しかし、私は実用や応用を意識して研究したことがありません。それゆえ、研究成果が特定の企業の課題解決や産業の振興に役立ったことは（おそらく）ありません。一方、研究成果を英語論文として公表すると、その時点で世界とつながります。私の知らないところで、私の研究成果が誰かの役に立ったり産業の芽として育ったりしているかもしれません。それがまわりまわって静岡県の企業の課題解決につながることもあり得ます。科学に限らず技術でも同じことが言えるでしょう。地域貢献が世界とつながるのとは逆方向に、科学や技術を通じた人類社会への貢献は、地域に還元される可能性があるのです。

地元の課題とは直接関係しない研究、勤務先が静岡県に限定されない企業への就職、離れた地域の大学への編入や大学院への進学などは、通常沼津高専にとって地域貢献とはみなされません。しかし、学生の皆さんは、将来に渡り何らかの形で科学や技術に関するアウトプットを出し、それを通じて社会に貢献するでしょう。住んでいる場所や、働いている場所によらず、科学や技術を通じた社会への貢献は、地域への貢献にもつながるはずです。つまり、人類社会の発展に寄与するものはすべて地域貢献と言えそうです。皆さんはどう思いますか。

## できることこそコツコツと

副 校 長（総務主事）
**稲　津　晃　司**

新型コロナウイルス感染症にとどまらず、既往のインフルエンザなどの感染症が散発的に流行する時期があり、場面に応じたマスク着用や手指の消毒といった基本的な感染拡大防止策の継続は必要であったものの、今年度は３年ぶりに感染症対策による制約が実質的にない活動を行うことができました。従前の日常を取り戻すだけでなく新しい日常を、と呼びかけられた１年間、みなさまにとってどのようなものだったでしょうか。久しぶりに取り組んだこともあれば、思い切って始めてみた取り組みもあったことでしょう。本校内外で数多く開催されたコンテストへの応募を契機にチャレンジを始めた学生のみなさんも多かったことと思います。

いずれの取り組みにおいても、やりたいと思った肝心のことを進めたり、達成したりするには関連することが必要であることが少なくないと思います。この「関連すること」は、一見、関係や必要性が希薄に思えることも多く、気が進まなかったり、これが元になって当初の希望や目的を失ったりすることさえあります。ざっぱくな例に、新しく見知った、ある料理を食べたいと思った時をあげることができます。この場合、自分で調理するか、家族等に調理してもらうか、飲食店等に依頼（注文・購入）するかが目的達成の手段です。しかし、食材や食器の準備あるいは注文のための外出、人への依頼、スマホアプリ等のインストールと操作などが先に必要で、さらに部屋（卓上）や外出あるいはスマホ等での決済の設定の準備が必要となります。清掃や身なりを整えること、スマホ等の設定をすることには食べることとの関連は希薄に感じるでしょう。一方で、これらのことはみなさんがすでにできることである場合も多いでしょう。

これまでの経験や思い込みから、「できること」をないがしろにしてやらなかったり、やめてしまったりすると、にわかに必要となったときに目的達成の障害となりえます。学修をはじめとする活動では基本の確認や継続的な取り組みがこの「できること」にあたるでしょう。本校の教育研究活動においては、学生のみなさんと教職員の日頃の様子を確認することや施設設備の点検・整備があたります。新しい、より良い教育・研究のためにやるべ

きこと、あるべきことは、たくさんあります。これを実現するためにできることこそ着実にやり遂げたいと思っています。ご理解とご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

## 勉強する目的の再確認

校長補佐（教務主事）
芹　澤　弘　秀

今年度は新型コロナ前に完全に戻ったと実感できる１年となりました。特にクラス担任のご尽力により、第４学年全５クラスで県外での宿泊を伴った研修旅行を実施でき、進路選択を目前に控えた４年生にとって大変有意義な研修になりました。コロナ前よりも活発になったことも多く、例えば学外コンテストへの学生の参加（授業活動含む）は延べ600人を超え（理系分野200人以上、文系・芸術系400人以上）、指導教員から学生の入賞や本選出場等の報告を聞くたびに沼津高専生の底力を実感しました。11月末には「課題解決に向けたアイデアや技術開発」をテーマとし起業マインドの醸成を目的とした第１回チャレンジコンテストの本選が学内で開催され（テクノフォーラム内で実施）、２部門で計８チームが発表を行いました。どのチームも独創的でレベルの高い内容でしたが、特に驚いたのは、上級生チームの参加が多く実装も必要なプロトタイプ部門で、１年生チームが優秀賞（２位）を獲得したことです（既に外部団体と共同で課題解決に取り組んでいると聞きます）。どのチームも活動を継続・発展させ、各自の夢の実現に繋げてほしいと願います。本校ではこのようなスタートアップ教育活動をサポートするため、文科省補助金で起業家工房「クリエイティブ・アトリエ」を整備し（２月14日開所式）、自由に試作等を行うための様々な装置や加工機を導入しています。学生諸君には是非とも施設・設備の積極的な活用を期待します（AI用のワークステーションも利用可能です）。

さて、年度末は様々なことを見直す良い時期です。１年間の振り返りを通して、良かったことはさらに伸ばし、うまくいかなかったことはその原因を分析してください。うまくいかない原因の一つとして目的のずれや見失いが考えられます。正しい目的設定は、その達成手段や目標にも影響するためとても重要です。最近、企業の信用を失墜させるような不正問題が相次ぎましたが、これもまた、目的（高い倫理観を含みます）がずれていることに起因していると考えられます。社会に出てから目的を見失うことは大きな損失・損害に繋がるため、学生のうちに正しい判断力を養うことが重要です。ところで勉強の目的は何でしょうか？知識や技術の修得はもちろんですが、そのプロセスを通して「正しい勉強法」の獲得も目的の一つです。結果（点数）ばかりに目が向きがちですが、学びの過程がとても重要です。正しい勉強法が身につけば、授業を受けなくても自らの力で新しい知識や技術を修得でき、社会に出てからとても役立ちます。長い春休みを利用して是非とも勉強法の点検を行い「勉強の目的」について再確認してください。

## コロナ以前へ

校長補佐（学生主事）
佐　藤　　誠

今年度は、制約のない学生生活の実現を目指して、学生会をはじめとする学生たちと共に様々な活動を展開してきました。学生会活動では、なんといっても制限のない高専祭が実現できたことは大きな成果であったと思います。さらに今回の高専祭では、全国初の試みとなるキャッシュレス決済の導入やYoutuberを呼んでの企画など、コロナ以前の高専祭に戻すだけではなく、より発展した高専祭の実現を感じることができました。また、美化委員会の新設により、昼休みのゴミ回収作業の手伝いも定着することができました。そして、学生会が主体となって校長発案のGXプロポーザルを学内で展開したり、近隣の小学校の学習サポートを行ったりと非常に充実した活動ができた１年となりました。今後もこのような学生会を主体とした活動は、より進化させていきたいと考えています。

課外活動においても、学生たちの積極的な取り組みにより、多くの成果があらわれた一年でした。高専体育大会では、サッカー部、バレーボール部、水泳部が全国大会に出場しました。個人種目での全国大会出場だけでなく、団体種目での全国大会への出場は、今後の運動部の活性化につながるのではないかと考えています。また、運動部のみならず、文化部の活動も活発に行われました。とりわけスタートアップ事業と関連して、多くのコンテストへの参加が実現しました。今年度新設したコンテスト同好会もその中で積極的に活動しており、今後の活躍が非常に楽しみになっています。

保護者等の皆様との協働という点では、教育後援会の学生部会から提案していただいた女子学生への学生支援をダイバーシティ推進の一事業として、同窓会の協力をいただき実現することができました。これは学内二箇所の女子トイレに無料の生理用品を設置するという事業です。現時点では手探り状態での展開ですが、今後も継続して発展させていくことができればと考えています。今

回の事業のように、保護者の皆様からいただいたご意見については前向きに検討していきたいと考えています。今後も学生のためになる提案を教育後援会などを通じて提案していただければ幸いです。

また、今年度は学生の交通事故件数一桁を目標に交通指導を行ってきました。その結果として、昨年度に比べ学生の交通事故が減少し、現時点（一月初旬）ではこの目標が実現できるのではないかと考えています。交通事故防止対策の一つとして４月から自転車のヘルメット着用を自転車通学の条件に取り入れました。道路交通法が努力義務ということでヘルメット未着用についての罰則等は設けていないため、ヘルメットの着用率は思ったよりも伸びていないように感じています。学校としては学生の安全第一を考えて近隣の高等学校に先駆けて実施していることをご理解いただき、ご家庭でもヘルメットの着用を学生たちに指導していただければと思っています。来年度以降も学生が生き生きと活動できる環境作りを進めていきたいと思いますので、保護者の皆様のご理解とご協力をお願いします。

## 退任のご挨拶

校長補佐（寮務主事）
**永　禮　哲　生**

３月を持ちまして私は２年間の寮務主事としての任期を終えることとなります。至らぬ点は多々あったとは思いますが、寮生会と寮務関係教職員の協力を得て無事に乗り切ることが出来ました。この間、コロナ禍での緊急閉寮や、優峰寮の改築に伴う入寮者数の制限など寮生、保護者の方々にはご迷惑をお掛けしたにも関わらず、この間の寮運営にご理解とご協力を頂きました。この場をお借りして御礼申し上げます。

今年度を振り返ると、４月に新入生を迎えたのを機に、従来は女子寮生の保護者のみ送付していた週末の外泊情報を、すべての寮生の保護者の方へ送付することとしました。また、このメールサービスを使用して、外泊情報以外に寮の行事や、閉開寮の日程などを連絡することもできるようになりました。これは、年間を通して週末の外泊管理を寮生会の役員が行い、正確な外泊者リストを提出してくれたおかげです。５月には新型コロナ感染症が５類に変更され、学校生活や寮生活もコロナ禍以前の状態に徐々に戻りつつあります。５月の寮祭では、寮生のご家族については昨年行っていた入場制限を廃止し、小雨交じりのあいにくの天候でありましたが、300人を超える方々にご来場いただくことができました。寮生の生活では、すべての階の補食室に冷蔵庫、電子レンジを設置し利便性を向上させることが出来ました。特に電子レンジについては寮生会で予算を立て、機種を選定し、設置までを行ってくれました。また、コロナ禍で実施できていなかった寮内での低学年向けの学習支援も企画し実施してくれました。この数年間、コロナ禍で寮生会の企画や行事が制限される中で寮生会の活動も縮小傾向になっていました。こうした中で、わずかではありますが生活を管理し、生活環境を自ら整え、寮生が楽しめる企画や学習支援を行える自治寮としての姿を取り戻すきっかけとなった年になったのではないかと思います。

２年間の任期を終えて現在、寮生活の主役はやはり寮生であり、年齢も性別も出身も異なる寮生をまとめ、楽しく快適な寮にしていくのは寮生会であること改めて実感しています。集団生活を営むための規則や制限はあり、自宅にはない不自由さもあります。しかし、寮生活でしかできない体験とその中で個々が成長出来るのも学寮です。２年間、主事として学寮に係わり寮生の成長を間近に感じることが出来ました。最後に、寮の運営に尽力してくれた寮生会の役員に改めて感謝いたします。皆さんには本当に助けられました。

本当にありがとうございました。

## 研究支援・地域連携活動を顧みて

校長補佐（研究主事）
**竹　口　昌　之**

本年度より研究主事を務める竹口昌之です。研究主事は地域創生テクノセンター長を兼務し、教員の研究活動の支援だけでなく、地域創生テクノセンターを核とした地域連携活動、具体的には学生・教職員に加え学外の企業、地域住民、児童・生徒等と連携した事業を多数行っております。本年度は試行錯誤を繰り返しながらも、いくつかの新しい取り組みにも挑戦しましたので報告させていただきます。

本年度は本校の教育研究の充実発展に資することを目的に、２つの部会（研究部会と地域連携部会）を設置して研究支援活動及び地域連携活動を推進しました。「研究部会」では、住吉研究副主事と横山研究主事補を中心に、新任教員への研究活動スタート支援や研究費申請者に対する査読サポートを行いました。また、本校が申請を計画しております次世代科学技術チャレンジプログラム（小中学生への理科教育増進プログラム）の申請に向けた取り組みとして、沼津市少年少女発明クラブ（代表 勝山智男名誉教授）参観や小中学生を対象とした自由研究・科学相談会を実施しました。小中学生を対象とした公開講

座についても定員を増やし、子供たちの探究心が芽生える活動に注力しました。静岡県東部の高等教育機関として科学技術に興味を持ち、科学技術を用いて社会に貢献する意欲のある小中学生の受入先となるよう次年度も地域の理科教育増進活動に力を注ぎたいと考えております。

「地域連携部会」では、大沼研究主事補を中心に、本校と企業との交流の場である地域創生交流会との連携強化を図りました。令和５年10月には地域創生交流会と本校の共催で、会員企業と本校教職員・学生の交流の場として「地域創生テクノサロン」を開催しました。本サロンは会員相互の情報交換や会員企業と本校教職員の交流の場として継続していきます。また、令和５年11月より会員限定のメールマガジンの配信を開始しました。次年度も地域創生交流会を中心に地域連携を推進していきたいと考えおります。新たな事業を始める一方で、限られた人的・財政的資源を最大限に活用するために平成20年度より開催してきた富士山麓アカデミック＆サイエンスフェアを廃止しました。

新任研究主事として、研究支援・地域連携活動を通して周りの人に助けられていることを実感する一年であり、周りの人と協力しながら早期に問題に取り組む必要性を学んだ一年でありました。次年度もよろしくお願いします。

沼津市少年少女発明クラブ第８回講座「ロボットのプログラム」（2023年12月16日，電子制御工学科棟）

小中学生を対象にした「自由研究・科学相談会」（2023年８月５日，専攻科棟）

公開講座「門池環境調査隊！2023　身近な水辺の環境を調べよう」（2023年８月10日，物質工学科棟）

第１回 沼津高専地域創生テクノサロン（2023年10月６日，サテライトオフィス N-com）

## 令和５年度を振り返って

校長補佐（専攻科長）
大　庭　勝　久

日頃より本校専攻科における教育活動にご理解とご協力をいただき、感謝申し上げます。令和６年１月現在における専攻科の在籍学生数は、１年生33名、２年生30名の計63名であり、２年生の１名は豊橋技術科学大学との連携教育プログラムを履修しています。また、４月には23名の入学者を迎える予定です。

現在、専攻科１年生は、本校専攻科の特徴である長期学外実習において、企業に23名、大学または研究機関に９名が配属されました。この内、１名が海外の大学、３名が複数の実習先で貴重な経験を積んでいます。

専攻科には学生による自治会があり、今年度の自治会長２年齋藤達志さんと副会長１年小河智摩さんは11月に岡田校長との懇談会に参加しました。学校生活や学修環境に関する提案など、有意義な意見交換が行われました。

また、本年度は環境エネルギー工学コースの所属学生が17名と過去最大であり、そのためにコース別に行っていた専攻科実験において、環境エネルギー工学コースの学生の一部は医療福祉機器開発工学コースのテーマを選択できるようにしました。異なるコースの専攻科生との混成チームによる課題解決型の実験が行われました。医療福祉機器開発工学コース実験では、F-met+（沼津高専特別課程である富士山麓医用機器開発エンジニア養成プログラムを修了した企業団体）や浜松医大、静岡県立こども病院、ファルマバレーセンターの外部協力者と連携した協働教育が実施され、その成果は沼津市制100周年記念沼津産業フェア（11月）やテクノフォーラムin沼津高専（11月）にて、試作した成果物やポスター展示をするなど、学外イベントで積極的に活動報告が行われました。

２年生の進路については、１月９日現在で修了予定者29名の進路が決定しており、就職内定者は18名（大善、日東電工、日立ハイテク、キヤノンメディカルシステムズ、スター精密、明電舎、アズビル、ルネサスエレクトロニクス、NOK、LINX、トヨタ自動車東日本、ホーチキ、ドゥシステム、IHI運搬機械、ユーザーローカル、日立ハイテクサイエンス、アクセンチュア、沼津市職員）となっています。大学院進学予定者は11名（北海道大学、東京医科歯科大学、長岡技術科学大学、筑波大学２名、電気通信大学２名、豊橋技術科学大学３名、奈良先端科学技術大学院大学）です。今年度はほとんどの学生がGW明けまでに第一希望の企業から内々定を得るなど、企業からの評価が非常に高くなっています。

今後も技術者教育の改善に努め、専攻科生にとって充実した学修環境を整備してまいります。ご理解とご支援のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。

## 学生自身が持つ力

学生生活支援室長
小　林　美　学

この高専だよりが手に届く頃は、今年度もあとわずかになっていると思います。学生のみなさんはそれぞれに様々なことがあった一年であったと思います。うれしいことばかりではなく心痛めることもあったかもしれません。それに対する向き合い方もじっと見つめたり、考えたり、少し距離を置いたりとその時々で様々であったかもしれませんが、いずれにしても自分自身が経験したこととして、大事にしてほしいと思っています。

さて11月に実施した保護者アンケートでは、多くの保護者の方から回答を頂き、ありがとうございました。学生生活支援室の専門職に関する設問では８割の方が、知っている専門職としてカウンセラーを挙げてくれました。一方で合理的配慮を担当している学生支援コーディネーター、経済的な問題や家族も含めた人間関係に対して環境面からサポートするソーシャルワーカー、メンタルヘルス相談ができる精神科医についても２～４割の方が知っている専門職として挙げてくれました。これらの専門職には、学生に関する相談でしたら保護者の方も利用できます。それぞれの専門職が来校する曜日や時間は学生生活支援室のWebページで紹介しています。学生生活支援室のWebページは沼津高専の公式Webページのリンクからたどれますから、ぜひご覧ください。

またいたらよいと思う専門職についてもお伺いしたところ、上級生を挙げてくださった方が何人かおり、うれしく思いました。実は昨年度から学生生活支援室では、事情のある学生への生活面や学習面でのサポートを、個人的にお願いしている学生がいます。サポートを引き受けてくれた学生は親身に寄り添い、その活動はサポートされる学生だけではなく、サポートする学生にもよい影響を与えたように感じます。またこのような学生間の支援の輪が広がることで、学内に助け合いや互いを尊重する気風が自然と生まれてくることと思います。２年間サポート学生として活躍してくれた学生はその活動が認められ、沼津千本ライオンズクラブから千本賞を受賞しています。この２年間は個人的にお願いした活動でしたが、来年度からはもう少しその輪を広げていけたらと思います。

一年間、お世話になりました。来年度も学生生活支援室の活動に、ご理解とご協力をお願いします。

## 令和５年度を振り返って

国際室長
大　川　政　志

昨年度までの国際交流センターは、本年度から国際室と改名され、新たな組織として活動を始めました。国際室は、海外交流部会と留学生支援部会からなり、沼津高専の国際化を推進しています。今年度もマレーシアから２名の留学生を３年生として迎えることができました。さらに、６月にタイのキングモンクット工科大学より１名、７月に韓国のウソク大学より４名の学生を短期留学生として迎えました。また、昨年度末には、５名の参加によるウェスタンミシガン大学でのアメリカ異文化体験・語学研修プログラムを実施し、５月に報告会を行いました。11月には豊橋技術科学大学主催の高専生のための「ペナンプロジェクト体験型研修２週間」と「ペナン異文化体験型研修１週間」に参加した学生２名の報告会を行いました。３月は、2023年度春季海外異文化体験プログラム（タイ）に11名の学生が参加する予定になっています。

# 各学科から（令和５年度総評）

## 新しいスタートに向けて

機械工学科長
新　冨　雅　仁

日頃より、機械工学科の教育・運営にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。

まずは、卒業を迎える学生のみなさん、ご卒業おめでとうございます。平成31年４月に入学され、５月には元号が令和に変わり新しい時代が始まる予感もありましたが、新型コロナウイルス感染症の拡大というまさかの事態で特に２～３年生にかけては学生生活を楽しむことも難しかったと思います。５年生になった本年度は様々な活動を制限なしに実施できましたので、高専祭など最後に楽しい思い出を作ることができたでしょうか？卒業後のみなさんのご活躍を心からお祈り申し上げます。

さて、機械工学科では本年度１名の学生がとあるコンテストに参加したいということを詳細なプレゼン資料を作成して申し出てきました。かなりチャレンジングなことですが、その後も仲間を集め、参加に向けて活動を開始し始めているようです。あくまでも学生主体の活動ですが、機械工学科としても活動場所の確保をはじめ、どんなサポートができるのかなどを考えております。保護者のみなさまにもサポートを依頼することがあるかもしれませんが、その際はどうぞよろしくお願い申し上げます。（活動内容については、すでに高専祭でポスター展示はしているのですが、学生から発信してもらうのが良いかと思いますので、ここでは触れずにおきます。申し訳ありません。）

最後になりますが、機械工学科の流体関連科目を中心に様々な授業をご担当いただきました村松久巳先生が本年度末で定年退職されます。長年のご尽力に感謝申し上げます。なお、村松先生にはさらに２年間嘱託教授として機械工学科の教育にご尽力いただくことになっております。

来年度、機械工学科は新たな学科長のもとでスタートすることになります。保護者のみなさまには学科運営等引き続きご協力のほどをよろしくお願い申し上げます。学生のみなさんとは４月に元気に会いしましょう。

## 電気電子工学技術で拓く安全安心な未来AI社会

電気電子工学科長
大　津　孝　佳

電気電子工学科学科長の大津孝佳です。1950年代に初めてその言葉が生まれた「AI（人工知能）」は、その後飛躍的な革新を遂げ、私たちの生活様式にも大きな変化を及ぼしてきました。2023年にはChatGPTを始めとした「生成AI」のブームが巻き起こるなど、この2024年は機械学習の実用化と深層学習（ディープラーニング）による第３次AIブームの真っただ中であり、AIは私たちの生活、社会、さらには人類そのものの存在を根底から変える可能性があります。AIの大幅な進化により、自動運転車では物体検知機能などでAIが利用されていますが、誤って物体検知することや物体検知を見逃すことが起こった場合、誤った車両制御により、事故が発生する可能性があります。そのために、Society5.0社会に於いて、インターネットに繋がるIoTやAI搭載システムなど、電気電子システムの信頼性が重要であることは言うまでもありません。電気電子工学科は、その基礎となる電気磁気学・電気電子回路から電気材料、電力工学などの知識とスキル、更に、通信やプログラミングなどの制御技術を融合させ、未来の社会システムを担う学科です。特に、2022年度からは４年生を対象とし、半導体プロセス、IoTデバイス、サイバーセキュリティについての実験実習科目がスタートしています。また、次世代に向け、社会全体の高電圧化と情報化が進み、電気電子工学科への期待はより一層高くなっています。本学科は第２種電気主任技術者の認定学科でもあることから、多くの企業からの求人が寄せられています。また、約半分の学生はスキルの向上を目指し、大学や専攻科に進学します。その為、基礎学力の向上のみならず、電子デバイスを支える材料技術・回路技術、信頼性を支える制御技術・通信技術・プログラミングなどの専門教育や実験実習科目の充実を図っています。

2024年度も電気電子工学科の３つの強みを活かして行きます。

１つめは、普及型教育の実践として、基礎学力の充実を目指した「Eスタ」です。上級生が企画・立案・実施し、下級生へ教えて学ぶ中での成長もこのプロジェクトの良さです。

２つめは、強化型教育の実践として、３年生「社会と技術」、４年生「PBL」、５年生「卒業研究」と繋げ、各教員の専門技術教育、情報セキュリティー教育、プログラム教育、知的財産教育、共同教育などにより、Society5.0社会に必要な社会システムを担う人材育成を目指します。

３つめは、地域との連携教育です。富士山や駿河湾、

自動車産業など地域特性を活かし、出前授業やKV-BIKE（電池自転車）・環境エネルギー教育など、地域の幼・小・中学校との連携を行っています。

2024年度も新しい電気電子工学科を宜しくお願い致します。

## これから社会に出ていくみなさんへ

電子制御工学科長
鈴　木　静　男

春暖の候、本科５年生と専攻科２年生の皆様、素晴らしい門出を心から祝福いたします。この季節になると、新たな一歩を踏み出すみなさんのあふれるエネルギーに刺激を受けて、私も新たな挑戦に向かおうという気持ちに駆られます。近年、特に身震いしたのが、第５回ワールド・ベースボール・クラシックの決勝、スター選手が揃う米国戦の直前にロッカールームで大谷翔平選手が円陣で日本チームメンバーに気合を入れた言葉です。「憧れるのをやめましょう。憧れてしまったら越えられない。今日は僕たちは越えるために来た。トップになるために来た。今日１日だけは彼らへの憧れを捨てて、勝つことだけを考えていきましょう。さあいこう！」。これから先、卒業生と修了生の皆さんが、それぞれの立場で志を持って前進する姿を祈念しています。

電子制御工学科では、自律移動ロボットシステム(MIRS)を製作する４年生１年間のグループ活動に重きを置いてきました。１年生からトライアル・アンド・エラーを常とし、MIRSを経て社会実装につなげられるよう目指してきました。来年度からは第５世代のMIRSへと進化を遂げますが、それは皆さんが築いた基盤の上に成り立っています。学外の方々との連携を進めることで、高専の特色をさらに磨いていく所存です。進学も含めて社会へ出ていくみなさん、失敗は失敗ではなく成功へのプロセスです。これからも挑み続けて下さい。また、保護者の皆様には、当学科に対しまして多大なご支援とご協力を賜りましたことに、深く感謝申し上げます。

最後になりましたが、本年度をもちまして、牛丸真司教授が定年退職されます。牛丸先生は、1992年に沼津高専に着任され31年間にわたって学生をご指導されてきました。特にMIRSプロジェクトに関して、牛丸先生は立上げ当時から関わられ、改善を繰り返され、発展させて下さいました。この紙面をお借りして先生に感謝の意を表しますとともにご健勝をお祈り申し上げます。

## 制御情報工学科の教育内容検討について

制御情報工学科長
鈴　木　康　人

平素より関係者皆様には沼津高専の教育・研究活動にご理解とご協力を賜りまして、ありがとうございます。令和５年度より制御情報工学科長を拝命しました鈴木康人です。学科長を受けるにあたり、私は本学科の教育内容の検討を目標としました。

高等教育機関では技術の進捗や研究成果に合わせて教育内容を改善する必要があります。情報系の学科では、およそ５–10年程度で見直すことが普通です。本年度より、コロナ感染症がインフルエンザと同じ扱いとなり、本校でも遠隔教育の体制から通常の指導体制へ戻っていて余裕が少し出てくるはずでした。そのため、本年度であれば検討を始められると考えました。

制御情報工学科の教育方針は「原理主義」といえます。コンピュータの技術は、進展の早い分野としてよく言及されますが、新しい技術も古い技術の改良であることが多いのです。そのため、原理的な事柄を理解していれば、新しい状況にも対応できますし、新しい技術も考案できるはずです。本学科では、この考えに基づいて教授しています。

私は（コンテスト同好会ではなく）プロコン同好会の顧問をしています。その活動の一貫として全国高専プロコン大会に参加しています。参加して学生の熱意と技術力の高さをよく感じます。私には制御情報工学科の学生のポテンシャルが、彼らと比較して低くはないのに、そういった積極性が感じられないことを残念に感じています。

そのため本年度は制御情報工学科の中堅教職員と半年以上、検討を行いました。結果、原理と最新技術をつなぐ部分の知識と経験の欠如が積極性の欠如になっているのでは、ということになりました。この結果から令和６年度より制御情報工学科ではこれらのギャップを埋めるため科目「特別研究」を開講することにしました。

内容については令和６年度が始まってから公開となります。制御情報工学科の学生さんの積極的な参加を期待しています。

## 2023年度を振り返って

物質工学科長
青　山　陽　子

2023年は、新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけが第５類に移行したため、沼津高専でも数年前のように、対面での座学・実験実習を行えるようになりました。コロナ下のオンライン授業では、教材や授業の録画を後で見直すことができるなど、良い点も多くありましたが、教員からは授業中の皆さんの表情や取り組みの様子がなかなか見えないもどかしさがありました。教室で皆さんの顔を見ながら授業ができるというのは、教員の私たちも嬉しいものです。皆さんも、ちょっとした疑問点を先生やクラスの友人に聞きやすくなったのではないでしょうか。一方、今年度気になった点は、授業や実験、試験を欠席する人が多くなったことです。実験や試験をお休みすると、そのために実験や追試験を別途行う必要があり、次の実験の準備ができない、試験の答案が返却できないなど、他の学生さんにも影響します。体調不良の場合は仕方がないのですが、極力お休みをしないように気をつけましょう。

2024年は、能登半島地震と羽田空港での飛行機事故という痛ましいニュースで始まりました。新年のお祝いのために家族や親族が集まっていたときに、帰省先から戻るときに、災害地へ救助の品を届けようとしているときに、災害や事故が起きました。沼津では地震の揺れを感じることはありませんでしたが、災害や事故は、今回たまたま無事でいる私たちにも起こり得ることです。最近、「メメントモリ」というゲームのCMをよくテレビで目にします。バンク・オブ・イノベーションより配信されているゲームアプリですが、このメメントモリ（Memento mori）とは、死を忘れるな、という意味のラテン語であることをご存じでしょうか。自分はいつか死ぬ身であるということを胸に刻んで生きなさい、ということです。被災された方、命を落とされた方に心を寄せ、今を大切に、自分のできることを精一杯行っていきましょう。

## 〈新時代の到来〉と教養科目

教養科長
小　林　美恵子

昨年５月を境に、学校もコロナ以前の生活に戻りました。マスクを取り、友達同士で大笑いし、声を合わせて歌を歌えるようになったことは、学生の皆さんにとって、本当に大きな喜びであることと思います。制限なしの高専祭でたくさんの来場者を前に張り切って活動する皆さんの笑顔は実に印象深いものでした。

コロナ禍は私たちに「人生、何が起こるかわからない」という教訓を与えてくれました。実際に、世の中は実に目まぐるしく変わっています。SNSの影響力は加速度を増し、人と人とのつながり方も、人の生き方も大きく変わりました。わずか10年先の社会さえ、どのようになっているか、確かな予測を立てることは難しくなったと言えるでしょう。

このような時代に、ものを生み出す専門家として巣立ちゆく皆さんは、社会から大いに期待された人材です。社会が揺れ動くことは不安定なことでもありますが、価値観の変化を生み、それまで不可能だったことが可能になるチャンスのときでもあります。多様性も重視され、国籍・年齢・性別・障害の有無等あらゆる壁を取り払い、誰とでも交流し、共生していかねばなりません。これまでの世代が実現できなかった新しい世界を創るのは皆さんです。ぜひとも、何かいいもの、新しいもので世の中を満たしてください。

そのためには、皆さんが専門とする工業の外にも心を開いて見聞を広め、どのような環境でも柔軟に対応できる強さとしなやかさを身につけておく必要があります。教養科目は、そんな皆さんの成長にきっと役立つことでしょう。美術・音楽・体育・哲学・歴史…、皆さんを多角的に刺激する科目の数々は、いろいろな知の扉を開き、考え方の転換を迫り、細やかな感性を育てるはずです。自分を作るのは自分です。新学期からは、今までとはちょっと違う、新たな気持ちで多彩な学びに向き合ってみませんか。

# 部　活　動

## 第61回東海地区国立高等専門学校体育大会入賞者一覧

| 競技 | 種目 | | 順位 | クラス | 氏名 | 全国出場 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 陸上競技 | 男子の部 | 走高跳 | 3位 | S 2 | 鍵山昂志 | |
| | | 走幅跳 | 3位 | S 2 | 鍵山昂志 | |
| | | 砲丸投 | 2位 | S 1 | 秋山智則 | |
| テニス | 男子の部 | 団体戦 | 3位 | D 1 | 菅沼雄之輔 | |
| | | | | S 4 | 藤田充人 | |
| | | | | E 4 | 松本大誠 | |
| | | | | E 4 | 下村聡汰 | |
| | | | | S 4 | 白井奏羽 | |
| | | | | M 2 | 石黒公貴 | |
| | | | | D 5 | 岡村翔 | |
| | | | | M 5 | 村山暢篤 | |
| | | | | D 2 | 中村悠一朗 | |
| | | | | E 1 | 堀光太郎 | |
| | 女子の部 | 女子ダブルス | 3位 | D 3 | 舟久保友花 | |
| | | | | C 3 | 澤登もえ花 | |
| 空手道競技 | 個人 | 男子組手 | 3位 | S 2 | 松浦慶太 | |
| | | 女子組手 | 2位 | M 4 | 中倉嬉多 | |
| | | 形の部 | 2位 | S 2 | 松浦慶太 | |
| サッカー競技 | | | 準優勝 | S 4 | 稲永隆真 | ○ |
| | | | | D 5 | 芹澤快 | |
| | | | | E 2 | 権代祐輔 | |
| | | | | D 5 | 安間丈紘 | |
| | | | | C 3 | 町拓磨 | |
| | | | | M 5 | 島田壱心 | |
| | | | | D 4 | 遠藤泰介 | |
| | | | | C 3 | 今井龍太郎 | |
| | | | | M 2 | 木村春喜 | |
| | | | | E 4 | 渡邊翔太 | |
| | | | | E 5 | 新井進之介 | |
| | | | | C 5 | 三枝怜平 | |
| | | | | S 4 | 服部優河 | |
| | | | | E 5 | 山下旺洋 | |
| | | | | E 3 | 田代吉哉 | |
| | | | | D 2 | 岩月亮篤 | |
| | | | | E 4 | 鈴木智博 | |
| | | | | D 4 | 田中康太郎 | |
| | | | | C 2 | 吉永鷹景 | |
| | | | | M 4 | 江口太朗 | |
| 剣道競技 | 女子団体の部 | | 3位 | E 3 | 馬場日奈妃 | |
| | | | | E 1 | 工藤日向子 | |
| ハンドボール競技 | | | 3位 | S 2 | 佐野優心 | |
| | | | | E 5 | 秋山はやて | |
| | | | | E 5 | 今枝磨音 | |
| | | | | E 4 | 田村健豊 | |
| | | | | M 3 | 白井陽人 | |
| | | | | E 3 | 久保達也 | |
| | | | | D 3 | 勝亦柚斗 | |
| | | | | S 3 | 河合春希 | |
| | | | | E 5 | 伊藤大河 | |
| | | | | D 2 | 中村耀 | |
| | | | | S 2 | 渡邊友喜 | |
| | | | | E 1 | 田口優 | |
| | | | | C 1 | 大川優悟 | |
| | | | | E 1 | 津川悠希 | |
| | | | | E 1 | 鈴木颯空 | |
| | | | | S 1 | 内海圭吾 | |
| | | | | S 1 | 田村愛琉 | |
| | | | | M 4 | 杉原隆良 | |
| 卓球競技 | 男子個人の部 | ダブルス | 3位 | S 3 | 上久保匠悟 | |
| | | | | C 3 | 林俊輝 | |
| | 女子個人の部 | ダブルス | 2位 | D 4 | 杉山珠里 | |
| | | | | D 4 | 長岡さゆり | |

| 競技 | 種目 | | 順位 | クラス | 氏名 | 全国出場 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 水泳競技 | 男子の部 | 800m自由形 | 2位 | E 3 | 清原翼翔 | ○ |
| | | 200m背泳ぎ | 2位 | E 5 | 鈴木歩夢 | ○ |
| | | | 2位（同着） | M 5 | 高井勇冴 | |
| | | 200m自由形 | 1位 | E 3 | 鈴木温人 | ○ |
| | | | 3位 | E 4 | 鈴木涉 | |
| | | 50m自由形 | 3位 | S 3 | 戸谷聡汰 | |
| | | 400mメドレーリレー | 2位 | M 5 | 高井勇冴 | |
| | | | | E 4 | 鈴木涉 | |
| | | | | E 3 | 鈴木温人 | |
| | | | | E 5 | 鈴木歩夢 | |
| | | 100m平泳ぎ | 3位 | E 4 | 鈴木涉 | ○ |
| | | 100m背泳ぎ | 2位 | M 5 | 高井勇冴 | ○ |
| | | | 3位 | E 5 | 鈴木歩夢 | |
| | | 100mバタフライ | 1位 | E 3 | 鈴木温人 | ○ |
| | | | 3位 | E 4 | 縄谷賢史 | |
| | | 400mリレー | 3位 | E 3 | 鈴木温人 | |
| | | | | E 4 | 鈴木涉 | |
| | | | | E 4 | 縄谷賢史 | |
| | | | | E 5 | 鈴木歩夢 | |
| | 女子の部 | 100mバタフライ | 1位 | C 1 | 佐久間悠愛 | ○ |
| | | 100m平泳ぎ | 3位 | C 1 | 佐久間悠愛 | |
| | | 100m自由形 | 1位 | D 2 | 新村悠文 | ○ |
| | | 200m個人メドレー | 2位 | D 2 | 新村悠文 | |

## 第３回東海北陸地区国立高等専門学校体育大会入賞者一覧

| 競技 | 種目 | 順位 | クラス | 氏名 | 全国出場 |
|---|---|---|---|---|---|
| バレーボール競技 | 男子の部 | 2位 | S 4 | 江塚千洋 | ○ |
| | | | E 4 | 互野八起 | |
| | | | E 4 | 進藤魁利 | |
| | | | S 3 | 大川大輔 | |
| | | | S 3 | 小宮山敦大 | |
| | | | M 2 | 山内丈瑠 | |
| | | | M 2 | 佐藤天真 | |
| | | | M 1 | 小坂享介 | |
| | | | E 1 | 菊池和来 | |
| | | | E 1 | 工藤拓貴 | |
| | | | D 5 | 小柳津拓馬 | |
| | | | S 5 | 大庭勇人 | |
| | | | E 5 | 佐野慎乃輔 | |
| | | | C 1 | 川口紗龍 | |

※バレー競技においては、東海地区大会が令和３年度より北陸地区との合同開催となっている。

# 行事・コンテスト・その他イベント

## 体　育　祭

### いつもとは違う体育祭を

体育祭実行委員長　機械工学科３年
熊　澤　杏　司

令和５年度の体育祭は前期には球技大会を、後期はこれまでと違った要素を取り入れようと午前は運動会の要素を取り入れ、午後は球技大会を行いました。体育祭は沼津高専にある全校生徒が参加する学校行事の内の一つで、高専祭と同様に楽しみにしている学生も多くいます。また、スケジュール管理や何をするかを体育祭実行委員が決めることができるというのも大きな特徴だと思います。私が入学したときはコロナウイルスの拡大により、前期は上級生のみのドッチボール大会、後期は球技大会、二年次には球技大会とリレーを行いました。今年度は、私自身球技が苦手なこともあり、違うこともやってみたいと考えていました。

私は体育祭実行委員になると決まったときに友人から「部活対抗リレーがやりたい」との要望を受けました。そこで、自分が担当する令和５年度後期体育祭は運動会を取り入れたいと思い、球技大会を楽しみにしている学生、球技が苦手な学生のどちらも楽しめる午前と午後で違うことをしてみようとスケジュールを組みました。前述の通り体育祭は体育祭実行委員で何をするのかを決めるのですが、これは自由度が増える一方学生が主体となって行う体育祭となるので、かなり大変でした。実際、スケジュールは詰め詰めで午前の最後に行う予定だった学科対抗リレーはつぶれてしまいましたが、運動会の試験的運用ができて、今後球技大会以外を行うときの礎になれたのではないかと思います。

体育祭は学生自身が自らの手で考え、運営し、こうするべきだったと考える場になると考えています。実際私は令和５年度に初めて体育祭実行委員として仕事をし、経験者や過去の話をしてくれた先生がいたからこそ、これまでと違う方式の運営ができたのだと感じていますし、その分失敗もあり、後々の運営に生かせることもできたのではないかと思います。経験を後任に伝えていく。この方式があるから年々より良い体育祭ができるのだと考えています。

## 高　専　祭

### Ｒ５年度高専祭「ただいま」

高専祭実行委員長　電子制御工学科４年
金　子　桃　花

こんにちは、Ｒ５年度高専祭実行委員長を務めさせて頂きました電子制御工学科４年金子桃花です。

高専祭を振り返ると、当初掲げた目標である『コロナ流行前の活気を取り戻すこと』が、多くの方々の協力と努力によって達成されたことを誇りに思います。新型コロナウイルスの影響で失われた活気を取り戻し、両日無事に高専祭を開催できたことがとても嬉しかったです。

今年度の高専祭では、例年のような活気を取り戻すという願いを込めて、テーマを『ただいま』としました。この言葉には、多くの来場者が高専祭に戻ってきてくれることやコロナウイルスが原因でできなかった企画等の復活への願いが込められており、スタッフ一人ひとりがこのテーマに向かって活動してくれました。

ここで心から感謝の意を表明したいのは、協力してくれた全スタッフ・在校生の皆さんと、高専祭を支えてくださった保護者の方々です。皆様の協力なくして、この素晴らしい高専祭は実現できませんでした。在校生たちは精力的に準備に取り組み、保護者の方々にもご理解とご支援をいただき、誠にありがとうございました。

来年に向けて、より良い高専祭を開催するため、一層のご協力をお願い申し上げます。これまでの成功は、高専祭に関わってくださった皆さんの協力と努力の結晶であり、その効果を継続するためにも、引き続きのご支援をお願いいたします。

## 知財のTKY(寺子屋)活動報告

### ㈱知財のTKY『部』に昇格
### ～設立から９年の歩みと感謝～

知財のTKY（寺子屋）同好会顧問　電気電子工学科
大　津　孝　佳

Society5.0を担う価値創造型の未来産業人材育成を目指し、2015年に『知財のTKY「寺子屋」』を設立し、９年目を迎えました。地域特性を活かし、TRIZ（特許分析から生まれた発想法）を武器に、本物への挑戦を通して、課題発見し、アイデアを創造し、解決に挑む。特に、理想と現実を理解し、その差を明確にすることで技術課題の解決策を育むと言ったTRIZの『トングスモデル』の実践を行っています。主な活動は、⑴充電式単三電池40本で鈴鹿サーキットやモビリティーリゾート茂木に挑むKV-BIKE（電池自転車）のレースへの挑戦。⑵日本一深い駿河湾（深海2500m）の深海調査活動です。2015年からスタートしたKV-BIKEは大学高専部門で、２度の優勝、２度の準優勝、３度の３位の成果を上げてきました。そのバッテリーマネージメント、カメラ技術や映像編集技術を活かして、2016年より深海プロジェクトが発足し、「2020年深海2020に挑戦」を目標に調査機材の開発を行い、コロナ禍を経て、2022年に松崎沖深海2030mの4K撮影に成功しました。また、2020年にはコロナ禍で活動が制限される中、TRIZの40の発明原理を活かし、シーラカンスの等身大ブロック模型を製作し、2020年12月より沼津港深海水族館に展示されています。2021年からは沼津港深海水族館や焼津の深海漁師の方々の協力を得て、オオグソクムシの生態観察や生態調査を行いました。また、駿河湾フェリーと連携した「船上教育プログラム」の支援や、静岡放送と連携した日本財団の「深海研究スーパーキッズ育成プロジェクト」の支援をスタートしました。更に、2022年から深海のみならず海上での鯨類調査にも広がっています。

これまでの活動は、2022年４月26日のWIPO（世界知的所有権機関）のWorld IP Day（世界知的財産の日）に於いて、知財のTKYの活動が世界に紹介されました。第18回TRIZシンポジウムに於いて「TRIZを武器に駿河湾の魅力を発信」が「あなたにとって最も良かった発表」を受賞しました。

2023年は第94回日本動物学会全国大会（山形大学）では７件の発表、日本動物学会中部支部大会（三重大学）では４件の発表を行い、『SNSを活用した駿河湾の鯨類調査とChatGPTを用いた考察』が最優秀賞を受賞しました。また、沼津高専チャレンジコンテストで『粘土で簡単！駿河湾3D模型』が最優秀賞を受賞しました。特に、WIPO（世界知的所有権機関）主催のShow & Tell スピーチコンテストにて、電気電子工学科３年の藤江優光さんが「駿河湾とTRIZで新たな観光モデルの提案と実践」と題し、「銀賞」に輝きました。

知財のTKY

日本動物学会山形大会

## 知財のTKY（寺子屋）の歩み

知財のTKY（寺子屋）同好会　電子制御工学科４年
肥　田　友　希

私たちは、今までの活動実績が認められ、来年度より同好会から正式にクラブとなります。活動を支援してくださったみなさまに感謝しています。これからも日々の活動を見守っていただければ幸いです。

活動実績についてはX（旧Twitter）や取材等にて詳細が語られていますので、私個人として、また部長としての視点での知財を綴ります。

忘れもしない私が１年生の時のこと。入部届を持っていったのは月曜日でした。その週の日曜日に展示する等身大３Ｄブロックシーラカンスが頭部しか出来てないと告げる先輩と、同じく入部届を握りしめた同級生数人と顔を見合わせ、「なんとかしなきゃ！」と放課後にせっせとシーラカンスを製作し始めました。水曜日であらかたできていた体が半壊したときは天を仰ぎましたが、土曜日に専攻科生の差し入れをもらいながらなんとか間に合わせることができました。そのシーラカンスは、好評をいただいたらぽーと沼津での長期展示から、現在は沼津港深海水族館の展示となっています。

当時は「知財でブロック!?」と思っていましたが、その後TRIZの発想法の１つである40の発明原理をシーラカンスから探そうと自分たちでまとめたものが、TRIZ学会に発表できたことで、「これもちゃんと知財なんだ…」と実感を得た強烈な経験です。終わってみれば充実していました。ただ、いつもこんなに破天荒な活動をしているわけではありません。この一件よりすごいことは４年間の活動ではまだ起こっていません。

それからは日本動物学会の発表や深海調査等を経て、機材の扱いや研究をまとめて発表するスキル、駿河湾フェリーにてこれまでの知見や、私の得意なデザインのことからプロの声優さんの収録のディレクションを体験するなど様々なことがありました。

そして、今年度校長先生から直々に表彰していただく貴重な機会を得て、自分達の活動に自信を持ち、更なる高みへとチャレンジしていく気持ちを新たにしました。

これからも着実に実績を積み重ね、日本一高い富士山と日本一深い駿河湾という沼津ならではの地域特性を活かした取り組みや、部員一同と様々な人との協力により地域に貢献していきます。

これからの活動もぜひ応援、もしくはご参加をよろしくお願いします。

第34回全国高等専門学校プログラミングコンテスト

## 第34回の全国高等専門学校プログラミングコンテスト出場報告

プロコン同好会顧問　制御情報工学科
鈴　木　康　人

令和５年度の第34回全国高専プログラミングコンテストは、めがねの生産で有名な、福井県鯖江市で開催されました。今年は、コロナ感染症の５類移行を受け、一般の方にも広く公開されての開催となりました。高専プロコン大会は、指定されたテーマに沿ってシステムを開発する課題部門、自由な発想からシステムを開発する自由部門、コンピュータが、あまり得意ではない処理を中心にその日に出される問題を解くシステムを作って出場する競技部門の三部門があります。沼津高専は、本年度は競技部門のみの参加となりました。今年の競技部門はマス目をとりあう陣取り合戦でした。

今年は、プロコン同好会にとって、波乱に見舞われた大会となりました。

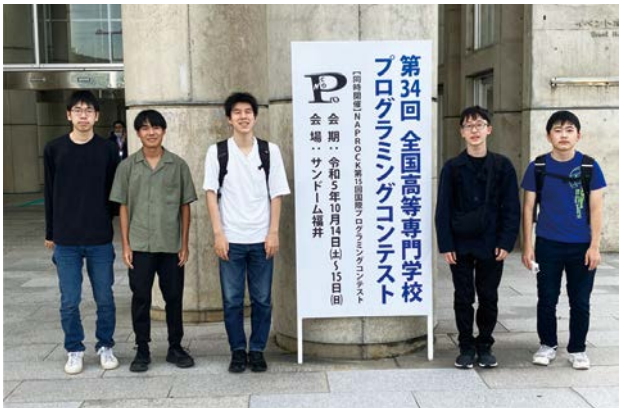
高専プロコン大会は、大会の前日に最終受付があり、沼津を出るのはその日となります。出発の朝、メインプログラマーをしている学生さんから、誤操作でコードとデータを全て消してしまった、と連絡が来ました。（gitという版管理システムを使っていたのですが、バックアップを保存するコマンドを打つ前に削除したとのことでした。）高専プロコン大会は２日にわたって開催されます。競技部門では、初日の対戦後に、他の高専のプログラム

コードの動きを参考に、自分たちのそれまでのコードを全て破棄し、作り直して、上位に入ることもあります。それに、実際、一度、コードを作っていれば、思い出しながらつくることは、それほど難しいことではありません。そのため、学生さんには、翌日の出場までに、なんとか復旧するよう指示しました。

自分が代わって作ることもできず、内心ではヒヤヒヤしながらの引率でした。

最終的には大会の参加に間に合い、結果はよくはありませんでしたが、自分たちのコードで対戦することができました。

この経験が、良かった、と言い得るかどうかはさておき、今後に活かしていってほしいと思うばかりです。




## 3度目の高専プロコン

プログラミング同好会部長　機械工学科４年
遠　藤　大　祐

本年度の全国高専プログラミングコンテスト（高専プロコン）第34回大会は、福井高専が主幹校となり昨年度同様に現地開催となりました。本同好会では競技部門へ１チーム出場しました。競技部門が中止となった第31回大会以降、３年連続での出場になりました。今回大会では海外高専の学生も現地で参加することができ、会場にも活気が溢れていました。

高専プロコンの競技部門とは、人の手で解くことが難しい、複雑な問題に対してコンピュータの力を活用し解決を目指す部門です。今回の大会では陣取りゲームを題材とした対戦形式の競技が行われました。ただし、単純な陣取りゲームではなく、自分のコマが複数あり、侵入出来ないマス、得点の高いマスもあるなど人の手では最適解が求めにくいものでした。

私達のチームではRustというプログラミング言語を用いて問題解決に取り組みました。プログラムが自ら考えて行動する機械学習と呼ばれる技術を用いて、その時々でプログラムが考える最適な手を打たせるというプログラムを作成しました。

チームとしてプログラムの完成度を高めていきましたが、対戦相手となる他高専のプログラムも非常に完成度が高いものが多く、セカンドステージ敗退という結果になりました。しかし、今回のプログラム開発で学ぶことも数多くありました。この経験を活かし、来年度は自由部門への出場も目指して行きたいと考えています。

## ロボットコンテスト2023

## アイデアを実現する力を身につける

ロボコン部顧問　電子制御工学科
青　木　悠　祐

日頃よりロボコン部の活動へのご理解とご声援をありがとうございます。10月29日(日)、第36回アイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテスト2023東海北陸地区大会が金沢工業大学第２体育館（石川県野々市市）にて開催されました。2023年度の競技課題は、「もぎもぎ！フルーツGOラウンド」、ロボットによる果物回収です。

沼津高専からはAチーム「採集決戦農具（サイシュウケッセンノウグ）」、Bチーム「RhoOoOmbus（ランバス）」の２チームが参加しました。結果として、両チームとも予選リーグ１勝１敗となり、決勝トーナメントには進出できませんでしたが、どちらのチームもフルーツを回収することに成功し、障害物（木材やロープ）にも対応することができました。その点で大きく成長を感じる大会でした。

３年生が中心となり臨んだAチーム「採集決戦農具」は、比較的早くロボットを完成させ、調整に時間を取れている状況であったため、会場での計量計測もすぐに通り、テストランでも順調に動作を確認することができました。しかし、初戦の相手が優勝校であったため、その実力差を実感する試合となりました。２試合目ではとにかくアピールをすることを決めて試合に臨み、見事センターゾーンに到達することができました。

２年生が主体となったBチーム「RhoOoOmbus」はアイデア出しの時から、ロボット全体の動きをシンプルにして確実に得点ができるようにするというコンセプトで製作を進めてきました。現地でも調整・修正をずっと続けて挑みましたが、自分達にやれることを確実にやろうと決めて、得点獲得、段差越えを達成することができました。次年度主力となる彼らの成長を実感できる良い大会でした。

今後ともロボコン部の活動へのご理解と部員達へのご声援をよろしくお願いいたします。

## 技術を身につけ、成長を続ける

ロボコン部部長　電子制御工学科３年
松　嶋　昂　平

今年の高専ロボコン2023「もぎもぎ！フルーツGOラウンド」には３年生主体のAチーム「採集決戦農具」、２年生主体の菱形の展開を意味した「RhoOoOmbus」の２チームが出場しました。

具体的な競技内容や機体については弊部のHP（https://robocon.numazu-ct.ac.jp/wp/）やロボコン公式などをご覧ください。

今年の２，３年生はコロナ禍以前の競技型のロボコンを経験していない若い世代の挑戦となり、十分なノウハウを持っておらず、作業が予定通りに進行しなかったり、人手、そして資金面での課題もあったりで、さまざまな問題によって機体製作が難航してしまいました。しかし、皆が一体となり、時にチーム間での協力、また外部の企業様のご支援などもいただき、なんとか競技が成立するだけの完成度の機体を作り上げることができ、それらの解決の過程により多くの成長をすることができました。

しかし今年の高専ロボコンは結果として東海北陸地区予選大会予選ブロック１勝で敗退という結果になってしまい、特別賞の受賞には至らず、皆、もちろん私もある程度手応えと自分たちの製作したロボットへの自負もあったために、とても悔しさを感じました。

その一方で、私は両チーム、特に２年生主体の特に若い世代だけで構成されたBチームがしっかり競技をすることのできるだけのロボットを自分たちの力で作り上げることができた経験にこそ価値があると考えます。

彼らがさらに高い技術を身に着け、成長し、チームの中心となって皆を引っ張っていく来年の大会は、この経験を活かしてきっと大きな成果を出し、新たな成長につながる価値を作りだすことができると確信しています。

これから次回大会の競技テーマが発表されるまでの数ヶ月を有意義に使い、来年の大会に参加する人たちが今年の結果以上の成果につながるように、今できることを精一杯進めます。

# 学生会活動について

## 未曾有の状況を乗り越えて

学生会長　制御情報工学科４年
佐　藤　羽　瑠

今年度学生会長を務めさせていただきました、制御情報工学科の佐藤羽瑠です。

本年度はコロナの影響を受けずにさまざまなことに挑戦することのできた一年でした。

私が入学した2020年はコロナ禍元年と呼ばれる年で、入学式がなく遠隔で高専生活が始まるという未曾有の状況に直面し、学外研修や高専祭・体育祭、クラブ活動など、これまでの「学生らしい」経験が制限され、もどかしい３年間を過ごしてきました。

そのもどかしさをバネにコロナ以前よりも活発に学生会活動を行えるよう活動した一年でした。具体的に申しますと、クラブ同好会の新設、学内コンテストの企画運営、全国高専初キャッシュレス高専祭、ペーパーレス化の推進など、さまざまな改革を行うことができました。

クラブ同好会においては、知財のTKY特別同好会を部活動に、コンテスト同好会を新たに新設し、両クラブともに意欲的かつ活発に活動しています。

高専祭においては、全国高専初のキャッシュレス高専祭を学生会本部主導で行いました。こちらはコロナ禍の高専祭において金券を使用していた昨年までの問題点を振り返り、近年急速に普及しているキャッシュレス決済を全出店に導入し現金を扱うことなくスムーズに決済ができました。

そして、SNS・デジタルサイネージによる機関紙発行・広報活動を行い、学生会本部内の資料に関してもデジタル化を行うことでペーパーレス化を推進しました。

これらの活動報告は一部ではありますが、学生会は授業・実験以外での学びを得るためのさまざまな活動を企画・運営していければと考えています。次年度も学生会本部はよりよい高専生活づくりのため尽力していきますので、引き続きみなさまの御協力をお願いします。

# 退職教職員から

## 多くの学生に囲まれて

機械工学科
村　松　久　巳

「こんにちは！先生いますか？」、研究室に来客です。専攻科研究の報告書や卒業論文作成の打ち合わせや添削をしている時間ですが、すぐにわかりました、M科の卒業生です。学業、学生会活動、クラブ活動に熱心に取り組んでいたことが思い出されます、昨日のように鮮明に覚えています。差し出された名刺を拝見すると、企業の役職になり職務に専心しているようです。仕事のやりがいや活躍の様子、業界の動向などを話してくれます。「ぜひ後輩を職場に送ってください。先生は残り何年勤続するのですか？」、この３月で退職ですと答えると、びっくりした様子で今後の心配をしてくれます。同期卒業の友人の学生時代のエピソード、海外の事業所での活躍、社内で表彰されたこと、新規事業に取り組んでいる様子、社内教育担当職のこと、話が尽きません。

また、就職担当職で面会した人事担当者、出前授業や入試広報活動で訪問した小中学校の先生方、学会活動で出会えた企業技術者・大学研究者から、沼津高専と卒業生に対する高い評価をいただき、在学生・卒業生の活躍をうれしくかつ頼もしく感じます。

本校に34年間勤務して多くの学生に出会い、教え・教えられることが多くあり、教育研究に取り組むことができたことに感謝しています。加えまして、保護者の方々、教職員の皆様に多くのご支援をいただき、深く感謝いたします。末筆ながら沼津高専および皆様のますますのご発展とご健勝をお祈り申し上げます。

令和５年度 専攻科研究・卒業研究の学生とともに

## 教員生活を振り返って

電気電子工学科
高　野　明　夫

私は昭和60年４月に静岡大学電子科学研究科に採用され、２年半後の昭和62年10月に沼津高専の電気工学科（現在の電気電子工学科）に赴任いたしました。この３月で高専教員として36年半、大学を含めると39年の教員生活になります。

大学在職中は、賄い付きの大工さん宅の２階に間借りしておりました。当時の世相は、まさにバブル真っ盛りで、大家さんが株投資をしていたのを覚えています。当時は預金金利が高く、貯金だけでも資産を増やせる時代でした。沼津高専に赴任して10年ほどしてバブルが弾け、今では、預金金利は当時と比較できない程低く推移しています。このため別の意味で国が資産運用を国民に呼びかけ、最近では学生に金融教育が施されるようになり、隔世の感がしています。

沼津高専に赴任した当時、私には研究室がなく、先輩の先生の教員室に半年ほど寄せていただいておりました。教員室に電熱線式の電気ポットがあり、自由に使って良いというので、使わせていただいたのですが、温度センサが付いておらず、仕事に夢中になってお湯を沸かしていることを忘れてしまい、電気ポットを壊してしまったことが何度かありました。今では、温度センサ付きでない電気ポットはほとんどありません。電気製品の進化は著しいですが、こんな些細なところにも時代の進歩を感じます。

私は、主に電気機器、制御工学などの授業を担当してきました。私の専門は「モータの制御」ですが、制御工学は、実は教員になってから独学で学んだ内容が多く、特にデジタル制御については全て教員になってから学んだものです。研究内容を進歩させるためには、新たな知見の導入が不可欠です。それがひいては研究だけでなく授業にも生かせることを痛感してきました。学生の皆さんも、狭い視野にとらわれず、知見を増やしながら自分の専門性を高めていただきたいと思います。

末筆になりましたが、在職中は担任だけでなく、専攻科長、学生主事、研究主事などを歴任させていただきました。学生の皆さん、卒業生の皆様、教職員の皆様、保護者の皆様のご協力に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

## 退職のご挨拶

電気電子工学科
大　津　孝　佳

人生100年時代、25年間は自分のスキルを磨き、25年は社会に貢献し、25年は後継者を育て、25年は自分の為にとし、1985年に日立製作所に入社後、25年間ハードディスクドライブ用の磁気ヘッドの開発/設計に従事しました。学生時代に学んだ電磁気学、高電圧工学、プラズマ工学のスキルを活かし、イノベーションのジレンマに代表されるように記録密度を毎年２倍とする開発を続け、技術、市場構造、世界の構造、垂直統合がこれほど広範囲に渡って急速に進化した業界は他に無いという世界を過ごしました。その中で、企業の活動で大切なことは３つのP『①Patent, ②Paper, ③Product』であることを痛感し、また、High Speed 21活動と呼ばれた社内教育で習得したDFSS（Design for six sigma）『QFD（品質機能展開）＋発想法TRIZ＋タグチメソッド（ロバスト設計）』のBlack Beltのスキルを教育の世界に活かしたいと思いました。学生時代に習得した教員免許や会社で取得した工学博士のスキルを活かせる場があり、本科と専攻科を合わせて７年間の一貫教育ができ、何と言っても高校生年代に専門的な工学教育のできる唯一の教育機関である高専に魅力を感じ、2010年に鈴鹿高専電気電子工学科教授に着任しました。高専では早速、研究活動を通し、学生の実験スキルの面白さに気付かされました。その成果で、米国ESD AssociationのAward受賞し、学生とアナハイムのディズニーランドでの学会に行きました。

ロボコンではプロジェクトマネージメントを強化し、５年間で３回、国技館での全国大会に行くことができました。パテントコンテストでは５年間で４名が入賞し、特許取得をしました。外部資金として、JSTの科学技術コミュニケーション事業地域型「みえサイエンスネットワーク」の採択を受け、鈴鹿サーキットを創造教育のキャンパスとして活用する電池自動車（KV40）や電池自転車（KV-BIKE）の活動を地域自治体や地域企業と連携して実施しました。2015年からは、沼津高専電気電子工学科に移籍し、現在に至っております。内閣府が推進する知財創造教育を推進し、INPITの「知財力開発校事業」にも継続参加しました。特に、１年生から専攻科生までが１年で１回以上知財を学ぶ機会を有する全学的スパイラルアップ型の学習カリキュラムを構築すると共に、課題活動では、富士山や駿河湾、自動車産業など地域特性を活かし、KV-BIKEの継続推進や、深海調査にも取り組みました。2023年に深海2030mの4K映像の撮影に成功し、正にハードディスクで体験した１年で２倍への挑戦を学生達と共に実践出来たことが嬉しいです。また、教員顕彰にて分野別優秀賞を受賞させて頂き、感謝いたします。教員生活は15年目を迎えます。ロードマップとしては計画の半ばを過ぎたところです。来年度も再雇用教員として、教育に関わっておりますので、是非宜しくお願い致します。

## 感謝・感謝・感謝

電気電子工学科
望　月　孔　二

私の沼津高専との出会いは、中学３年生の時に、私が通う中学校OBで沼津高専OBの方に沼津高専を案内して頂いたことでした。高校とはだいぶ違うすごい場所だと感じ、高専受験を志すようになりました。それ以来沼津高専は、受験生としてあこがれの的・在学生として学び成長する場・卒業生として懐かしく思う所であり、そして教員としての職場でした。また、時代の要請に応える学生を教育する場であり続けていると思います。

電機会社で働いていた私が教員に転職したきっかけは、沼津高専の恩師から教員へのお誘いを受けたことでした。私は、幸せな高専学生時代を思い出し、今度は自分が後輩育成に寄与したいと願って転職致しました。精一杯努めた積りですが、どの程度寄与できたでしょうか。

それにしても、学生生活に加えて教員生活も、沼津高専の皆様にお世話になり支えられたものであることを、今更ながら強く感じます。この場を借りて皆様に深く御礼申し上げます。また、学生にも感謝です。私が教員で居られたのは、こんな私を先生と呼ぶ若者がいたからでした。

ここで一つ触れたいのは健康の大切さです。私が2021年１月に３週間ほど心臓病で入院したのは人生最大の危機の始まりでした。更にその後に心臓弁の交換や、１年強の自宅療養をいたしました。お陰様で2022年12月に職場復帰をして今に至りますが、療養に専念できましたのも、私の仕事を担って下さった方々、復帰に向けてご尽力いただいた方々がいたお陰です。有難うございました。

職場復帰はしたものの仕事は制限付きです。今も皆様のお手を煩わせていることを心に刻むと共に、皆様への感謝の想いをますます強めています。教員の皆様、事務方の皆様、本当に有難うございました。皆様に置かれましても、くれぐれもお身体を大切にして下さい。

これからも沼津高専が更に発展してゆくことを祈念しています。

## 進化できない老兵

電子制御工学科
牛　丸　真　司

先日久しぶりに図書館で本を借りた。もう30年くらい前に出版されたある思想家の当時の時代批評だったが、私の価値観のルーツがその時代にあることを再認識した。

私は本校機械科15期の卒業生です。本校卒業後、静岡大学工学部に２年、名古屋大学工学研究科に３年（実質は２年）在籍したあと、同じ名古屋大学の理学研究科に６年間と、計11年間の大学生活を送った。その後、本校で最初に卒研生としてお世話になったM教授からお誘いがあって、1992年４月に本校電子制御工学科に赴任しました。

高専の５年間とともに卒業後のこの11年間、中でも赴任前に名古屋大学水圏科学研究所（現在の宇宙地球環境研究所）で過ごした６年間が今の私の価値観のルーツとなっている。当時はバブル全盛の頃だったが、大学・研究所に張り付いた生活をしていた私は、それとは全く無縁だったが、苦しくもとても楽しい時代だった。小さな研究所という環境もあったが、教員・院生を交えた研究所全体での研究発表・交流の場があった。夜９時を過ぎた頃になると研究所の一室に人が集まってきて酒宴になることもしばしばだった。事務のお姉さん方と一緒にティータイムを楽しんだりもした。私が名古屋に住んでいた４畳一間のアパートの家賃は月１万円のまま変わらなかった。

今から振り返れば「昭和」の最後の時代を謳歌していたと思う。自身も若くてこれから先何とでもなる、というような意識が漠然とあった。平成、令和と移って「昭和の常識は通用しない」ことなどはもちろんわかっている。また定年退職という現実を前にして、もう先は限られていることも痛感している。だが、当時に刻まれた記憶は、本校に赴任して32年になろうとしている今でも私の根っこに残っている気がする。だがそれは自身が進化できずにいることの裏返しでもある。進化できない老兵は「現場」からさっさと退場するのが世のためだろうと思う。

## かけがえのない10年の日々

教養科
成　田　智　子

この３月で定年を迎えることになりました。沼津高専には10年半勤めさせていただいたことになります。私は自身が静岡市の中高一貫校出身だったため高専の名前さえ知らずに高校生活を過ごしました。大学卒業後、企業に勤めましたが仕事に魅力を感じず２年で退社、教員免許をとりに大学に戻り27歳で高校教員となりました。結婚を機に静岡市から沼津市へ転居し子をさずかったものの専業主婦は納まらず、国立の研究所の教授秘書、高校非常勤講師などの職を経て最終的には教育にやりがいを見出し、沼津高専の非常勤講師となりました。講師室では沼津高専を退職された立派な豪快な先生に出会い、楽しく貴重な交流の中で教員として多くを教えていただきました。背中を押していただいて沼津高専の採用試験を受験して幸いにも採用され、その先輩先生から多くを学んだおかげで私の教員としての構えができていきました。寮務、様々なPCでの作業やオンライン授業など仕事は新しいことが多く常に学びの連続で、とりわけ担任業務は細かな対応が求められ重責を伴いますが、苦労の後には大きな喜びが返ってくることを実感させてもらいました。

よく教員は教えてもらったように教えるものだといわれています。何人か思い出に残る先生方を思い出しあの先生だったらこんな時どうするかと考えていました。私なりには、「学生の可能性を信じてその成長を期待し、同時に自分に対する学生からの期待に応える」ことを旨としてきました。小学校１年生から10年以上「生徒／学生」という仕事をやっているプロの仕事人のような学生たちは教員の人柄や仕事の質を敏感に感じ取っているのだと思います。その学生たちのお眼鏡に適う教員になりたいと思っていました。適ったかどうかは日々の授業での学生の反応で確かめ、学生アンケートをドキドキしながら読ませてもらったものです。これでは教員と学生の立ち位置が逆のようでおかしいと思われるかもしれませんが、これは沼津高専の「ひとがらのよい優秀な技術者となって世の期待にこたえよ」という校訓と似ています。教員の仕事ぶりを生き方の一つのサンプルとして何かを学んでくれたら、教員として本望です。

高専生はとても個性的で魅力的です。新年度からは再雇用で共に学ばせてもらいたいと思います。よろしくお願いいたします。

# 卒業生・修了生から

## 人とのつながり―人を頼ることのススメ

機械工学科５年
村　山　暢　篤

私が高専に入学してから５年が経過しましたが、全く実感がわいていません。私たちの世代は２年生の時に世の中がコロナ禍になり、授業が遠隔になってしまったことや、海外研修などのイベントがなくなってしまったこともあってか、５年間が短かったように感じます。５年前の私は、他の高校とはかなり違った高専という環境への不安感と、見学に来た際に見た工作機械に早く触れてみたい、という思いを胸に抱いて入学してきました。そこから５年間、硬式テニス部での活動や工場実習、高専祭のスタッフ活動などの楽しいことだけでなく、課題や試験に追われて苦しい思いをしたことも何度もありましたが、高専に入ってよかったと胸を張って言い切ることができます。

私が高専で５年間を過ごして得ることのできた最も大きな学びは、「人とのつながり」です。ありがちな言葉ですが、この５年間ではこれがとてもありがたいことだと感じています。私は正直に言って成績面でずっと苦労してきました。時には定期試験で赤点を取ってしまった科目もありました。まったく褒められたことではないのですが、それでも何とか５年生まで進級してくることができました。進級できた最も大きい要因はもちろん先生方がわかりやすく教えてくださり、事後指導を行ってくださったことですが、もう一つの要因は、わからないことをそのままにせず、積極的に人に聞くようにしていた成果だと思います。当初は人に聞くことを恥ずかしいことだと思いこんでしまっていたのですが、分からないままにしておくことのほうが恥ずかしいと気づき、友人や先生に積極的に教えてもらうように意識するようになりました。勉学のみに限らず、なんでも自分だけで抱え込むのではなく、自分ができないことは他人を頼ることを選択肢に入れておくことが大切だと思います。人とつながることで成長できた高専生活でした。

最後になりますが、５年間大変お世話になりました。

## 出会えた人に感謝を

電気電子工学科５年
秋　山　はやて

もしも、沼津高専に入学できていなかったら今頃自分は何をしているだろうか。私はそんな自分を想像することができません。入学当初から沼津高専という進路は最善の選択であるという自信がありました。５年間という長い時間を沼津高専で過ごしてその自信は確信に変わりました。この５年間は楽しいことばかりではなく、苦しいこともたくさんありました。しかし、沼津高専に進学したことを後悔したことは一瞬もありませんでした。

これほど充実した時間を過ごせたのは、素晴らしい出会いに恵まれたからだと思います。私が３年生の時に学科プロジェクトがきっかけで仲良くなった友人たちは、私が入学時に想像していた高専生像に近い人ばかりでした。例えば、ある出来事を工学の専門用語を使って比喩すると笑ってくれたり、同じように返答をしてくれたりするような人たちです。私にとってはこんな会話がゲームの話やドラマの話よりも楽しいです。気の置けない話ができる友人は私にとって高専で得た１番の宝物です。また、友人だけでなく先生方にも恵まれていたと思います。電気電子工学科は話しやすい先生が多いなと感じました。先生が学生の雑談に混ざって一緒に話をする機会が多く、積極的に私たちに関わってくれます。そのため、勉強や進路の相談以外にも個人的な相談をたくさんしました。どんなにくだらない話でも私が満足するまで話を聞いていただいて何度も救われました。時には怒られることもありましたが、そのたびに自分に足りない部分を気づかせてくださいました。多くのことを教えていただいた先生方には深く感謝しています。

振り返れば数えきれない多くの思い出がありますが、どれも気の合う友人や先生方との思い出ばかりです。この５年間で得た最大の学びは「人との繋がりの大切さ」かもしれません。沼津高専で出会い私を心身共に成長させてくれた皆さんへの感謝を忘れず、人生の次のステップへ進みます。ありがとうございました。

## 高専７年間の振り返り

環境エネルギー工学コース２年
村　尾　　響

沼津高専に入学してから卒業するまでの、人生において最も大切な７年間が終わるときが来ました。入学するときは卒業までの５年間を高校生活よりも長い途方もない時間だと思っていましたが、現在では専攻科を含めた７年間ですらも短いものだったと感じています。高専独自の文化の中で印象深かったものは寮生活でした。本科１年生のときは年上の学生が多いので、寮生活がとても不安に思っていました。しかし先輩や友人の優しさや、寮生のみのイベントによって楽しく過ごすことができました。学年が上がるにつれて役職に就いたり、教わる側から教える側になったりして周りとの関わりが変化していくのを感じました。この寮文化があることで他学年との交流に抵抗がなくなり、５年生になって他学年のいる研究室での活動がより円滑に進むのではないかと思っています。

専攻科では、環境エネルギー工学コース特有の本科での物理や専門科目をエネルギー分野に応用した科目、環境そのものや環境に関する問題について学んで工学の知識を活かして解決案を考える科目と、研究における専攻科目に関わる科目を受講しました。専攻科のカリキュラムによって情報工学と環境エネルギー工学の２つの視点を持つことができ、グループ活動やスライドでの発表で役立ちました。専攻科で一番ためになったと思っているものは学外実習です。４ヶ月の間企業に所属してデータサイエンスに関わるプロジェクトに携わりました。５年生からディープラーニングを用いて研究をしていましたが、研究や自学では学ぶことができない貴重な体験を得ることができました。

高専に入学してから７年間で様々なことを学ぶことができました。高専では中学生の頃の私では考えることができないような知識や能力を身に付けることができました。これからは高専で学んだことを活かして社会に貢献できるような技術者となるために日々研鑽していきます。

# 学生の研究活動（2023.4.1～2024.3.31）

## 論文発表

（学生が第二著者等であってもすべて記載。）
（学科は略称で記載。例：機械工学科５年＝Ｍ５、環境エネルギー工学コース２年＝EC２）
（海外での発表の場合は英字で記載）
（賞を受賞している場合は、その名称を発表題名の後に赤字で記載。）

| 学科<br>学年 | 著者名（共著含）<br>（筆頭著者に○） | 論文誌名、巻号（年）頁 | 論文題名 | 指導教員 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|
| AC2 | ○馬場　勝人<br>鈴木　涼太<br>上　泰<br>三谷祐一朗<br>馬場　勝人 | システム制御情報学会誌, Lol.67, No.7 (2023) pp.275-280 | IoT予知保全事業を通したIoT普及に関する諸課題と取組事例 | 三谷祐一朗 | |
| AC2 | ○鈴木　涼太<br>三谷祐一朗<br>馬場　勝人 | 計測自動制御学会中部支部 教育工学研究委員会 教育工学論文集 Vol.46 (2023) pp.22-24 | 冷凍機のIoT遠隔監視・予知保全システムの開発 | 三谷祐一朗 | |
| EC1 | ○千賀　健一<br>三谷祐一朗<br>馬場　勝人 | 計測自動制御学会中部支部 教育工学研究委員会 教育工学論文集 Vol.47 (2024) 掲載予定 | 環境試験器におけるPID制御による温湿度同時制御の特性調査 | 三谷祐一朗 | |
| AC1 | 鈴木梓依菜<br>（○芳野　恭士、坂間　秀剛、後藤　健太、伊藤那都実、水野　幹大） | 沼津工業高等専門学校研究報告, No. 58 (2024) pp. 21-26 | 香煎茶の糖または脂質消化酵素阻害成分(2)：溶媒抽出と透析による成分分離 | 芳 野 恭 士 | |
| C5<br>AC1 | 加藤　榛華<br>留場　柚<br>（○芳野　恭士、芳野　広起、鈴木　静男） | 沼津工業高等専門学校研究報告, No. 58 (2024) pp. 31-36 | 沼津産やぶきた緑茶の成分特性 | 芳 野 恭 士<br>鈴 木 静 男 | |

## 講演発表

（学会名ごとに並べる。）
（登壇者が学生の場合又はそれに相当する場合のみ記す。講演論文が４頁程度であっても講演発表に含める。）
（共同研究者名には指導教員は含めない。）
（学科は略称で記載。例：機械工学科５年＝Ｍ５、環境エネルギー工学コース２年＝EC２）
（海外での発表の場合は英字で記載）
（賞を受賞している場合は、その名称を発表題名の後に赤字で記載。）

### ロボティクス・メカトロニクス 講演会 2023 in Nagoya
### 名古屋国際会議場／2023.6.28-7.1

| 学科・学年 | 学生氏名 | 講演発表題名 | 指導教員 |
|---|---|---|---|
| MC2 | 齋　藤　達　志 | 超音波診断支援システムにおける、薬事認証プロセスを考慮した研究デザインの構築 | 青 木 悠 祐 |
| MC1 | 小　河　智　摩 | 協調動作による超音波診断支援システム構築に向けた脳波解析における指標の提案 | 青 木 悠 祐 |
| MC1 | 尾　崎　優　太 | 超音波診断支援における可操作度を考慮した協調診断空間の構築 | 青 木 悠 祐 |
| MC1 | 柴　田　光　咲 | 超音波診断支援ロボットによる協調動作時のプローブ把持解析 | 青 木 悠 祐 |

### 第19回TRIZシンポジウム
### オンライン／2023.8.31-9.1

| 学科・学年 | 学生氏名 | 講演発表題名（共同研究者名） | 指導教員 |
|---|---|---|---|
| D4 | 肥　田　友　希 | 課題研究「カップラーメンでTRIZを学びプチ起業に挑戦」 | 大 津 孝 佳 |
| E4 | 渡　邊　　竣 | | |
| C4 | 関　野　萌　衣 | | |
| C4 | 北　村　　天 | | |
| C4 | 岩　田　みなみ | | |
| D4 | 長　岡　さゆり | | |
| D4 | 上　野　晴　瑚 | | |
| E3 | 藤　江　優　光 | | |
| M3 | 小　川　隼　輝 | | |

| 学科・学年 | 学生氏名 | 講演発表題名（共同研究者名） | 指導教員 |
|---|---|---|---|
| M3 | 眞　保　　愛 | 課題研究「カップラーメンでTRIZを学びプチ起業に挑戦」 | 大 津 孝 佳 |
| M3 | 小　林　　聖 | | |
| C3 | 進　士　野々香 | | |
| C2 | 伊　藤　紗侑里 | | |
| S2 | 眞　野　水　綺 | | |
| E2 | 麦　島　好　美 | | |
| E2 | 奥　平　和　哲 | | |
| E2 | 山　口　敦　郎 | | |
| E2 | 小　林　未来翔 | | |
| E2 | 杉　山　大　登 | | |
| E2 | 武　田　倫太朗 | | |
| E2 | 酒　井　　奏 | | |
| C3 | 森　田　　翔 | | |
| D2 | 榑　林　空　汰 | | |
| D2 | 鈴　木　大　智 | | |
| E3 | 藤　江　優　光 | 小学校１、２年生への「落ちてくる卵を守る」TRIZ教育の実践 | 大 津 孝 佳 |
| M3 | 小　川　隼　輝 | | |
| E4 | 渡　邊　　竣 | | |
| D4 | 長　岡　さゆり | | |
| C4 | 北　村　　天 | | |
| E2 | 成　川　　諒 | | |
| C3 | 森　田　　翔 | | |

## 日本動物学会第94回山形大会
## 山形大学　小白川キャンパス／2023.9.7-9

| 学科・学年 | 学生氏名 | 講演発表題名（共同研究者名） | 指導教員 |
|---|---|---|---|
| E2 | 奥　平　和　哲 | 小型4K撮影システムによる駿河湾深海2030mの生物多様性の調査<br>（ポスター賞） | 大 津 孝 佳 |
| M1 | 杉　山　倖　太 | | |
| E2 | 杉　山　大　登 | | |
| D2 | 森　田　　翔 | | |
| E2 | 成　川　　諒 | | |
| M3 | 小　川　隼　輝 | | |
| E5 | 望　月　　倫 | | |
| E4 | 渡　邊　　竣 | | |
| M3 | 小　川　隼　輝 | 焼津沖深海から駿河湾深部への栄養移動<br>（ポスター賞） | 大 津 孝 佳 |
| M1 | 後　藤　悠　斗 | | |
| C3 | 前　田　湊　斗 | | |
| M1 | 武　石　慎之介 | | |
| E2 | 奥　平　和　哲 | | |
| D4 | 肥　田　友　希 | | |
| S2 | 眞　野　水　綺 | 駿河湾焼津沖に生息するオオグソクムシの水深による体形の違い<br>（ポスター賞） | 大 津 孝 佳 |
| M1 | 芦　川　　都 | | |
| D1 | 田　中　愛　子 | | |
| C2 | 森　田　　翔 | | |
| D1 | 酒　井　都　初 | | |
| M1 | 中　野　恵　那 | | |
| E1 | 兵　頭　　怜 | | |
| D1 | 藤　原　くるみ | | |
| C2 | 伊　藤　紗侑里 | | |
| C2 | 加　藤　　周 | | |
| C4 | 関　野　萌　衣 | | |

| 学科・学年 | 学生氏名 | 講演発表題名（共同研究者名） | 指導教員 |
|---|---|---|---|
| C2 | 森田　翔 | 深海性等脚類オオグソクムシの走光性と酸素消費量の違い（ポスター賞） | 大津孝佳 |
| D1 | 藤原くるみ | | |
| M1 | 中野恵那 | | |
| S2 | 眞野水綺 | | |
| M1 | 芦川　都 | | |
| M1 | 池田理夏 | | |
| D1 | 岸本真理子 | | |
| D1 | 宅見菜央 | | |
| D1 | 田中愛子 | | |
| C2 | 加藤　周 | | |
| D4 | 肥田友希 | | |
| E3 | 藤江優光 | SNSを用いた駿河湾の鯨類調査とChatGPTを用いた原因の考察（ポスター賞） | 大津孝佳 |
| D1 | 岸本真理子 | | |
| E2 | 奥平和哲 | | |
| S1 | 松本優臣 | | |
| E3 | 伊藤ミモザ | | |
| D1 | 吉澤勇希 | | |
| E4 | 渡邊　竣 | | |
| D1 | 宅見菜央 | 深海生物の特性を活かしたキメラ型バイオミメティクスロボットの開発（ポスター賞） | 大津孝佳 |
| E3 | 藤江優光 | | |
| S2 | 眞野水綺 | | |
| C4 | 関野萌衣 | | |
| C4 | 関野萌衣 | オオグソクムシの交替性転向反応 | 大津孝佳 |

### 化学工学会第54回秋季大会
### 福岡大学／2023.9.11-13

| 学科・学年 | 学生氏名 | 講演発表題名（共同研究者名） | 指導教員 |
|---|---|---|---|
| EC2 | 吉村和也 | 脱炭酸法による動物油脂由来バイオディーゼル製造のためのNi/MgO触媒の調製（藤森千加弥） | 伊藤拓哉 |
| EC1 | 寺尾大佑 | 新規水平回転円筒ガス化炉における気固接触効率評価法の開発（三好広飛） | 伊藤拓哉 |
| EC1 | 堀池拓真 | 混合溶媒下における木質バイオマスの直接液化（木村日菜子、原賀紫織） | 伊藤拓哉 |

### 日本分析化学会第72年会
### 熊本城ホール／2023.9.14

| 学科・学年 | 学生氏名 | 講演発表題名（共同研究者名） | 指導教員 |
|---|---|---|---|
| AC2 | 伊井ひなた | 水溶性Ni(II)-1, 2-フェニレンジアミン誘導体錯体の合成および近赤外吸収特性と活性酸素発生能調査 | 藁科知之 |
| AC2 | 小柳まい | 加水分解反応前後のマグネシウム板表面および断面の観察（山口千鶴） | 藁科知之 |

### 第174回教育工学研究会
### 大同大学／2023.9.15

| 学科・学年 | 学生氏名 | 講演発表題名（共同研究者名） | 指導教員 |
|---|---|---|---|
| EC1 | 千賀健一 | 環境試験器におけるPID制御による温湿度同時制御の特性調査 | 三谷祐一朗 |

### WIPO　Show and Tell / Presentation Competition
### 赤坂インターシティAir／2023.9.28

| 学科・学年 | 学生氏名 | 講演発表題名（共同研究者名） | 指導教員 |
|---|---|---|---|
| E3 | 藤江優光 | 駿河湾とTRIZで新たな観光モデルの提案と実践（銀賞） | 大津孝佳 |

### 富士・箱根・伊豆国際学会
### 韮山時代劇場／2023.10.14

| 学科・学年 | 学生氏名 | 講演発表題名（共同研究者名） | 指導教員 |
|---|---|---|---|
| MC2 | 植松勇太 | 茶園上方からの写真画像を用いた新葉の生産量と成分の解析 | 鈴木静男<br>芳野恭士 |
| AC1 | 留場柚 | | |
| D4 | 渡邉巧真<br>石川涼之佑 | 富士市役所からの富士山観測：統計と今後の展開について | 鈴木静男<br>鄭萬溶 |
| D5 | 河合陽杜 | | |
| S4 | 佐藤羽瑠 | 地域第一次産業へのIoT技術の適用：水わさび栽培・養鱒・獣害対策における取り組み | 鈴木静男<br>青木悠祐 |
| D5 | 芹澤快<br>畠山佑紀 | | |
| D5 | 加藤洸瑠 | 製造現場の効率化を目的とした工程管理システムの開発 | 大庭勝久 |
| EC1 | 望月優輝 | | |

### The 8th International Conference on “Science of Technology Innovation” 2023
### 長岡技術科学大学（オンライン）／2023.11.6

| 学科・学年 | 学生氏名 | 講演発表題名（共同研究者名） | 指導教員 |
|---|---|---|---|
| C5 | 紙井勝太郎<br>三枝怜平<br>杉山侑希<br>田畑滉太 | Syntheses of $d^8$ transition metal complexes with *o*-phenylenediamine derivative ligand and their ability to generate reactive oxygen species（K. Ohnuma） | 藁科知之 |

### 第33回RCJ信頼性シンポジウム
### 大田区産業プラザ／2023.11.10

| 学科・学年 | 学生氏名 | 講演発表題名（共同研究者名） | 指導教員 |
|---|---|---|---|
| EC1 | 大畑怜央 | 超高感度紫外線カメラを用いた放電エネルギー解析 | 大津孝佳 |
| EC2 | 位田直弥 | 超高感度紫外線カメラを用いた放電エネルギー解析 | 大津孝佳 |

### 第61回燃焼シンポジウム
### 秋田アトリオン／2023.11.15-17

| 学科・学年 | 学生氏名 | 講演発表題名（共同研究者名） | 指導教員 |
|---|---|---|---|
| EC2 | 髙橋直希 | 燃焼合成したTi-Al系金属間化合物の機械的性質に及ぼす相対密度の影響（藤田 英虎、坂部 凌央、新冨 雅仁、金 顯凡（沼津高専）、松岡 常吉（豊橋技術科学大学）、牧野 敦（元 愛知工業大学）） | 新冨雅仁 |

### 沼津高専チャレンジコンテスト
### 沼津高専／2023.11.30

| 学科・学年 | 学生氏名 | 講演発表題名（共同研究者名） | 指導教員 |
|---|---|---|---|
| D4 | 肥田友希 | 粘土で簡単！駿河湾3D模型察<br>（最優秀賞） | 大津孝佳 |
| E3 | 藤江優光 | | |
| E3 | 伊藤ミモザ | | |

### 令和5年度日本動物学会中部支部大会
### 三重大学／2023.12.2-3

| 学科・学年 | 学生氏名 | 講演発表題名（共同研究者名） | 指導教員 |
|---|---|---|---|
| E5 | 望月倫 | SNSを活用した駿河湾の鯨類調査とChatGPTを用いた考察<br>（最優秀賞） | 大津孝佳 |
| E3 | 藤江優光 | | |
| E3 | 伊藤ミモザ | | |
| E4 | 渡邊竣 | | |
| D4 | 長岡さゆり | | |
| D4 | 肥田友希 | | |

| 学科・学年 | 学生氏名 | 講演発表題名（共同研究者名） | 指導教員 |
|---|---|---|---|
| E3 | 藤　江　優　光 | 駿河湾深海調査2030mへの挑戦と新たな観光モデルへの展開<br>（優秀賞） | 大津孝佳 |
| E5 | 望　月　　倫 | | |
| E3 | 伊　藤　ミモザ | | |
| E4 | 渡　邊　　竣 | | |
| D4 | 長　岡　さゆり | | |
| D4 | 肥　田　友　希 | | |
| E5 | 望　月　　倫 | 駿河湾深海2030mの調査による海底地形と生物多様性<br>（優秀賞） | 大津孝佳 |
| E3 | 藤　江　優　光 | | |
| E3 | 伊　藤　ミモザ | | |
| E4 | 渡　邊　　竣 | | |
| D4 | 長　岡　さゆり | | |
| D4 | 肥　田　友　希 | | |
| E3 | 伊　藤　ミモザ | 深海生物の特性を活かしたTRIZ発想法とバイオミメティクスロボットへの応用<br>（優秀賞） | 大津孝佳 |
| E3 | 藤　江　優　光 | | |

**日本機械学会2023年度技術と社会部門講演会**
**神奈川工科大学／2023.12.17**

| 学科・学年 | 学生氏名 | 講演発表題名（共同研究者名） | 指導教員 |
|---|---|---|---|
| E5 | 伏　見　優　希 | 太陽電池製作を通して学ぶ半導体デバイスの基礎と再生可能エネルギー<br>（中津原克己：神奈川工科大） | 野毛　悟 |

**第30回日本育種学会中部地区談話会**
**名古屋大学　野依記念学術交流館／2022.12.17**

| 学科・学年 | 学生氏名 | 講演発表題名（共同研究者名） | 指導教員 |
|---|---|---|---|
| C5 | 黒　﨑　実　侑 | チャの不定胚培養における海苔寒天・フェアリー化合物・ろ紙の有効性<br>（流石啓司・河岸洋和・一家崇志） | 古川一実 |
| C5 | 大　角　寿　桜 | チャ（茶樹）の不定胚増殖や分化においてスクロースと同等の効果をもたらすトレハロース添加培養（黒﨑実侑） | 古川一実 |
| EC1 | 稲　葉　佑　弥 | ボンバードメント法でゲノム編集用ベクターを打ち込む際のチャ不定胚の二次胚誘導のタイミング（青島千恵理・平田洲五・山下寛人・一家崇志）　優秀発表賞受賞 | 古川一実 |

**遺伝学講座・みしま**
**三島市民文化会館／2024.1.13**

| 学科・学年 | 学生氏名 | 講演発表題名（共同研究者名） | 指導教員 |
|---|---|---|---|
| C3 | 植　松　由美子 | 沼津市北部にある門池に関する2021年度環境調査報告～2021　門池環境調査隊！～<br>（松本祐子、野毛　悟、竹口昌之、芳野恭士） | 芳野恭士<br>竹口昌之<br>野毛　悟 |
| C3 | 太　田　菜々美 | | |
| C3 | 市　川　仁　晴 | | |
| C3 | 町　　拓　磨 | | |
| C4 | 岩　田　みなみ | | |
| C5 | 秋　山　有　紗 | | |
| C5 | 大　角　寿　桜 | | |
| C5 | 帯　金　茉莉花 | | |
| C5 | 鴨　田　海　怜 | | |
| AC1 | 留　場　　柚 | 沼津茶の成分特性～摘採時期での比較～<br>（鈴木静男、芳野恭士） | 芳野恭士<br>鈴木静男 |
| C5 | 加　藤　榛　華 | | |
| C5 | 加　藤　榛　華 | 沼津茶の成分特性～静岡県内産地，製法，栽培品種での比較～<br>（鈴木静男、芳野恭士） | 芳野恭士<br>鈴木静男 |

**第29回高専シンポジウム in Nagaoka**
**長岡工業高等専門学校／2024.1.27**

| 学科・学年 | 学生氏名 | 講演発表題名（共同研究者名） | 指導教員 |
|---|---|---|---|
| MC2 | 稲　葉　瑠　人 | 患者の動向監視支援システムの開発―デプスセンサの精度比較―（宮下貴広） | 藤尾三紀夫 |

### 第39回茶学術研究会講演会
### クーポール会館／2024.2.29

| 学科・学年 | 学生氏名 | 講演発表題名（共同研究者名） | 指導教員 |
|---|---|---|---|
| C5<br>AC1 | 加藤榛華<br>留場柚 | 沼津茶の成分と効能の特性―静岡県内産地、製造方法、栽培品種、摘採時期での比較―（鈴木静男、芳野恭士）　奨励賞 | 芳野恭士<br>鈴木静男 |

### 電気学会全国大会
### 徳島大学／2024.3.14-16

| 学科・学年 | 学生氏名 | 講演発表題名（共同研究者名） | 指導教員 |
|---|---|---|---|
| EC1 | 渡邊敬矢 | トルクマップの勾配に基づく最大トルク応答制御のIPMSMを用いた実機実験 | 大沼巧 |

### 化学工学会第89年会
### 大阪公立大学／2024.3.18-20

| 学科・学年 | 学生氏名 | 講演発表題名（共同研究者名） | 指導教員 |
|---|---|---|---|
| C5 | 木村日菜子 | 混合溶媒を用いた木質バイオマスの直接液化における溶媒循環の検討（堀池拓真） | 伊藤拓哉 |
| C5 | 原賀紫織 | 混合溶媒を用いた木質バイオマスの直接液化における極性溶媒種の検討（堀池拓真） | 伊藤拓哉 |
| C5 | 藤森千加弥 | Ni担持触媒を用いた脱炭酸法による動物油脂由来バイオディーゼル燃料製造（吉村和也） | 伊藤拓哉 |
| C5 | 三好広飛 | 新規水平回転円筒ガス化炉のコールドモデルを用いた気固接触効率評価（寺尾大佑） | 伊藤拓哉 |

## 122号　補遺

### 日本動物学会関東支部第75回大会
### 明治大学・生田キャンパス／2023.3.18

| 学科・学年 | 学生氏名 | 講演発表題名（共同研究者名） | 指導教員 |
|---|---|---|---|
| E3 | 渡邊竣 | 小型4K撮影システムによる駿河湾深海500～2030mの地形と生物調査 | 大津孝佳 |
| D3 | 肥田友希 | | |
| E1 | 奥平和哲 | | |
| C1 | 森田翔 | | |
| E1 | 杉山大登 | | |
| E1 | 成川諒 | | |
| C1 | 釼持歩夢 | | |
| M2 | 小川隼輝 | | |
| D3 | 長岡さゆり | | |
| E4 | 望月倫 | | |
| C3 | 関野萌衣 | オオグソクムシの交替性転向反応の行動観察 | 大津孝佳 |
| D1 | 森田翔 | | |
| C3 | 北村天 | | |
| C3 | 岩田みなみ | | |
| D3 | 肥田友希 | | |
| E3 | 渡邊竣 | | |
| S1 | 眞野水綺 | | |
| C1 | 釼持歩夢 | | |
| D3 | 上野晴瑚 | | |
| E4 | 望月倫 | | |
| E2 | 藤江優光 | 深海生物の特性を活かしたキメラ型掃除ロボットの開発 | 大津孝佳 |
| C3 | 関野萌衣 | | |
| M2 | 山内新大 | | |
| D3 | 肥田友希 | | |
| E3 | 渡邊竣 | | |

※学科略称（M：機械工学科、E：電気電子工学科、D：電子制御工学科、S：制御情報工学科、C：物質工学科、【専攻科】EC：環境エネルギー工学コース、AC：新機能材料工学コース、MC：医療福祉機器開発工学コース）

# 令和５年度卒業生・修了生進路先一覧

令和6年2月27日現在

## 機械工学科　32名

### 就職先企業　15名

| | |
|---|---|
| アイリスオーヤマ株式会社 | 1 |
| 伊藤忠アーバンコミュニティ株式会社 | 1 |
| 株式会社大林組 | 1 |
| 東海旅客鉄道株式会社 | 1 |
| 京セラ株式会社 | 1 |
| 株式会社京都製作所 | 1 |
| 株式会社小林製作所 | 1 |
| 株式会社小松製作所 | 1 |
| 芝浦機械株式会社 | 1 |
| THKインテックス株式会社 | 1 |
| 東レ株式会社 | 1 |
| 浜松ホトニクス株式会社 | 1 |
| 株式会社ビオン | 1 |
| 富士フイルムビジネスイノベーションジャパン株式会社 | 1 |
| 矢崎総業株式会社 | 1 |

### 進学（編入学）先大学等　8名

| | |
|---|---|
| 豊橋技術科学大学　工学部 | 1 |
| 千葉大学　工学部 | 1 |
| 大阪工業大学　工学部 | 1 |
| 信州大学　工学部 | 1 |
| 沼津工業高等専門学校専攻科 | 4 |

### その他　9名

## 電気電子工学科　37名

### 就職先企業　18名

| | |
|---|---|
| 三栄ハイテックス株式会社 | 1 |
| 株式会社大林組 | 1 |
| アステラス製薬株式会社 | 1 |
| 第一三共プロファーマ株式会社 | 1 |
| 株式会社日立アドバンストシステムズ | 1 |
| 浜松ホトニクス株式会社 | 1 |
| 中外製薬工業株式会社 | 1 |
| キヤノンマーケティングジャパン株式会社 | 1 |
| 株式会社アルバック | 1 |
| 株式会社明電舎 | 1 |
| 任天堂株式会社 | 1 |
| 三菱電機ビルソリューションズ株式会社 | 1 |
| キヤノンメディカルシステムズ株式会社 | 1 |
| 森トラスト・ビルマネジメント株式会社 | 1 |
| 株式会社ヤマハコーポレートサービス | 1 |
| 富士電機株式会社 | 1 |
| 株式会社テクノサイト | 1 |
| パナソニックコネクト株式会社 | 1 |

### 進学（編入学）先大学等　18名

| | |
|---|---|
| 横浜国立大学　理工学部 | 1 |
| 弘前大学　理工学部 | 1 |
| 香川大学　教育学部 | 1 |
| 山梨大学　工学部 | 2 |
| 神戸大学　理学部 | 1 |
| 長岡技術科学大学　工学部 | 5 |
| 電気通信大学　Ⅲ類 | 1 |
| 東北大学　工学部 | 1 |
| 豊橋技術科学大学　工学部 | 1 |
| 豊田工業大学　工学部 | 2 |
| 沼津工業高等専門学校専攻科 | 2 |

### その他　1名

## 電子制御工学科　36名

### 就職先企業　18名

| | |
|---|---|
| 旭化成株式会社 | 1 |
| アステラス製薬株式会社 | 1 |
| 株式会社Mテック | 1 |
| 株式会社シー・エム・エス | 1 |
| 株式会社シーエーシー | 2 |
| 株式会社テクノサイト | 1 |
| 新明和工業株式会社 | 1 |
| 中外製薬工業株式会社 | 1 |
| 東レ株式会社 | 2 |
| テルモ株式会社 | 1 |
| パナソニック株式会社 | 1 |
| 浜松ホトニクス株式会社 | 1 |
| 東日本電信電話株式会社 | 1 |
| ファナック株式会社 | 1 |
| 富士フイルムビジネスイノベーションジャパン株式会社 | 1 |
| 矢崎総業株式会社 | 1 |

### 進学（編入学）先大学等　17名

| | |
|---|---|
| 香川大学　創造工学部 | 1 |
| 新潟大学　工学部 | 1 |
| 早稲田大学　基幹理工学部 | 1 |
| 東京国際工科専門職大学 | 1 |
| 大阪大学　基礎工学部 | 1 |
| 電気通信大学　情報理工学域 | 1 |
| 豊橋技術科学大学　工学部 | 5 |
| 沼津工業高等専門学校専攻科 | 6 |

### その他　1名

## 制御情報工学科　43名

### 就職先企業　19名

| | |
|---|---|
| 株式会社日産オートモーティブテクノロジー | 1 |
| 株式会社日立製作所 | 1 |
| スター精密株式会社 | 1 |
| 任天堂株式会社 | 1 |
| 国立大学法人豊橋技術科学大学 | 1 |
| ローランド株式会社 | 1 |
| キヤノン株式会社 | 1 |
| 第一三共プロファーマ株式会社 | 2 |
| 池上通信機株式会社 | 1 |
| 東日本電信電話株式会社 | 1 |
| 浜松ホトニクス株式会社 | 1 |
| アイリスオーヤマ株式会社 | 1 |
| 株式会社ロッテ | 1 |
| 株式会社日立アドバンストシステムズ | 1 |
| 東海旅客鉄道株式会社 | 1 |
| サンリツオートメイション株式会社 | 1 |
| パーパス株式会社 | 1 |
| オープンテクノロジー株式会社 | 1 |

### 進学（編入学）先大学等　21名

| | |
|---|---|
| 愛媛大学　法文学部 | 1 |
| 千葉大学　工学部 | 1 |
| 大阪大学　基礎工学部 | 1 |
| 筑波大学　情報学群 | 2 |
| 東京大学　工学部 | 1 |
| 東京都立大学　都市環境学部 | 1 |
| 東京農工大学　工学部 | 1 |
| 東京工科大学　メディア学部 | 1 |
| 名古屋大学　情報学部 | 1 |
| 豊橋技術科学大学　工学部 | 5 |
| 琉球大学　工学部 | 1 |
| 和歌山大学　システム工学部 | 1 |
| 沼津工業高等専門学校専攻科 | 4 |

### その他　3名

## 物質工学科 39名

**就職先企業** 15名

| | |
|---|---|
| 旭化成株式会社 | 1 |
| 浜松ホトニクス株式会社 | 1 |
| 星光PMC株式会社 | 1 |
| 矢崎総業株式会社 | 1 |
| 京セラ株式会社 | 1 |
| アステラス製薬株式会社 | 1 |
| テルモ株式会社 | 1 |
| 株式会社ヤクルト本社 | 1 |
| 花王株式会社 | 1 |
| イハラニッケイ化学工業株式会社 | 1 |
| 富士フイルムワコーケミカル株式会社 | 1 |
| NOK株式会社 | 1 |
| 株式会社キャタラー | 1 |
| 株式会社ニトムズ | 1 |
| シミックCMO株式会社 | 1 |

**進学（編入学）先大学等** 21名

| | |
|---|---|
| 山梨大学　工学部 | 1 |
| 新潟大学　理学部 | 1 |
| 石川県立大学　生物資源環境学部 | 1 |
| 大阪大学　基礎工学部 | 1 |
| 筑波大学　生命環境学群 | 1 |
| 東北大学　理学部 | 1 |
| 北海道大学　工学部 | 1 |
| 豊橋技術科学大学　工学部 | 2 |
| 長岡技術科学大学　工学部 | 2 |
| 東京農工大学　工学部 | 2 |
| 常葉大学　造形学部 | 1 |
| 沼津工業高等専門学校専攻科 | 7 |

**その他** 3名

## 環境エネルギー工学コース 10名

**就職先企業** 6名

| | |
|---|---|
| IHI運搬機械株式会社 | 1 |
| 株式会社日立ハイテク | 1 |
| 株式会社明電舎 | 1 |
| スター精密株式会社 | 1 |
| トヨタ自動車東日本株式会社 | 1 |
| 株式会社ユーザーローカル | 1 |

**進学（編入学）先大学等** 4名

| | |
|---|---|
| 豊橋技術科学大学大学院　工学研究科 | 2 |
| 長岡技術科学大学大学院　工学研究科 | 1 |
| 北海道大学大学院　環境物質科学専攻 | 1 |

## 新機能材料工学コース 10名

**就職先企業** 6名

| | |
|---|---|
| NOK株式会社 | 1 |
| アクセンチュア株式会社 | 1 |
| 株式会社大善 | 1 |
| 日東電工株式会社 | 1 |
| 株式会社日立ハイテクサイエンス | 1 |
| ルネサンスエレクトロニクス株式会社 | 1 |

**進学（編入学）先大学等** 3名

| | |
|---|---|
| 筑波大学大学院　理工情報生命学術院 | 1 |
| 電気通信大学大学院　基盤理工学専攻 | 1 |
| 豊橋技術科学大学大学院　工学研究科 | 1 |

**その他** 1名

## 医療福祉機器開発工学コース 10名

**就職先企業** 6名

| | |
|---|---|
| アズビル株式会社 | 1 |
| 株式会社LINX | 1 |
| キヤノンメディカルシステムズ株式会社 | 1 |
| 沼津市役所 | 1 |
| ホーチキ株式会社 | 1 |
| 株式会社ドゥシステム | 1 |

**進学（編入学）先大学等** 4名

| | |
|---|---|
| 筑波大学大学院　理工情報生命学術院 | 1 |
| 電気通信大学大学院　機械知能システム工学専攻 | 1 |
| 東京医科歯科大学大学院　医歯学総合研究科 | 1 |
| 奈良先端科学技術大学院大学　バイオサイエンス領域 | 1 |

# 教育後援会から

## 大海原へ漕ぎ出すあなたへ「独(ひと)りじゃないよ」

教育後援会会長　山　口　直　子

早春の候、皆様におかれましては益々御健勝のこととお慶び申し上げます。保護者の皆様、今年度も教育後援会活動への御理解・御協力を賜り、厚く御礼申し上げます。教職員の皆様、学生への手厚い御指導と御支援に、保護者を代表して心より御礼申し上げます。

今年度も残り僅かとなり来月から新年度を迎えます。卒業生は就職・進学などそれぞれの大海原へと漕ぎ出し、在学生は更に学びを深めていきます。新たな一歩を踏み出す前に、今一度これまでのことを振り返ってみてほしいのです。

学生の学習環境を整え、心身のサポートをしてくださった教職員の方々。栄養バランスを考慮し健やかな食生活を支えて下さった寮関係の方々。そして皆さんの幸せと健康を心から願い続けて下さるご家族。更には、インターンシップ先や研修先でお世話になった方々…

皆さんは、多くの方々の温かい言動に見守られ支えられて此処に存在しています。勿論、皆さん一人一人の努力があってこその今であることも間違いない事実。自信を持ってください。

生き物は孤独だと悲観的になる傾向があるそうです。しかし仲間や支えてくれる存在を意識することで、生きる力や自信がみなぎり、想像以上の大きな力や才能が発揮できるようにもなるそうです。皆さんは独りではありません。皆さんの幸せを願う存在に包まれている、ということを覚えておいて欲しいのです。

昨今、世界情勢は凄まじい勢いで変化しています。どうすれば良いのか戸惑うことも多々あるかもしれません。そんな時のための４Ｃをお伝えさせて頂きます。

① **Concern（関心）**：将来に関心を持ち必要なスキルを習得する
② **Control（統制）**：選択も決定も他人任せにせず自分でコントロールする
③ **Curiosity（好奇心）**：常に好奇心を持ち新しいことを吸収する
④ **Confidence（自信）**：「自分には出来る！」強固な自信を持つ

自己理解が浅い…そんな人は周りに聞いてみてください。自分では意識していなかった自分の強み・関心の方向性など、周りはよく見て理解しているものです。そして応援もしてくれるはず。そうなればまさに百人力！

人に支えてもらってばかりで良いのか？…そんな時こそ「**恩返し**」です。「ありがとう」と感謝の一言を伝えるだけでも大丈夫。恩返しする相手が側にいないなら「**恩送り**」をしましょう。自分がしてもらって嬉しかったことを今度は他人のために…。それができればもう最高です！

皆さんの未来が明るい希望と幸せで満たされますように…

学生の通り道に掲示されるメッセージを年間通じて募集しています。受付はこちらの二次元コードから。

【保護者から学生へのメッセージ】に沢山のメッセージをお寄せ下さりありがとうございました。
来年度も引き続きメッセージを受け付けておりますので、よろしくお願い致します。

# 同窓会から

## 同窓生の現役学生に対する思い

同窓会会長　**長　岡　善　章**

同窓生の多くは、現役学生と学校のことを気にかけています。同窓会に関わってくれる同窓生は、その思いが強い人がとても多い。

いまの社会は、複雑化しています。また、長引く景気低迷により、学生が悩んだり経済的に困ることも多いでしょう。学校が置かれている状況も大きく変わりました。以前よりも改善したこともあるでしょうし、学校としてやりたいけどやれないこともあるように感じています。同窓会に関わってくれる同窓生・卒業生の多くは、そんな時、『何か自分にできることはないか？』『言ってくれればできることはするよ』と思っています。しかし、一人でできることは限られています。それに、学校の情報や要望が卒業生にはなかなかわかりません。そんな思いを、同窓生ひとりひとりに代わって、現役学生のため、学校のためになることを、ちょっと手助けするのが、同窓会の役割の１つと、私は考えています。

いままでも、奨学金、部活の全国大会への遠征費用補助、各種イベントの補助、高専祭での企業展示やホーム・カミングデーの運営や支援、コロナ時の授業支援や遠隔用パソコン・加湿器・消毒用機材の寄附など、さまざまな形で支援をしているのも、同窓生の思いを同窓会が代わって実施しているものです。

先日は、教育後援会からの要望をきっかけに、『女子学生のために、学内トイレに無料配布の生理用品を設置したい』という相談をいただきました。『やろう』と合意ができればすぐに動けるのが同窓会の強み。設置用の箱はメーカである花王の協力を得て、中身は同窓会が寄付をし、スムーズに設置をすることができました。

社会に出ると、こんなことがよくあります。高専生ってマイナーなんですね。あまり人数が多くない。とってもがんばっている人物、ちょっと個性的で、優秀で、おもしろい人物。そんな人と出会ったとき、詳しく話をしてみると、他の高専卒業生だということが、割とあります。

「えっ、〇〇高専ですか？私、沼津高専です！」
「へ～、沼津ですか！高専大会で行きましたよ」
これだけで、急に親近感がわいたりします。

そんな人たちが集まっているのが、沼津高専同窓会です。大きな力はありませんが、その代わりに柔軟性があります。スピーディーに対応したいとき、力になれるかもしれません。学校の先生を経由していただければ、連絡を取ってもらえると思いますので、何か困った時には、相談してみてください。

# お　知　ら　せ

## 令和６年度授業料免除及び徴収猶予等について

世帯収入の基準を満たし、しっかりとした学ぶ意欲がある本科４・５年生及び専攻科生については、申請により、文部科学省及び日本学生支援機構が行う高等教育の修学支援新制度が受けられます。対象となれば、返還不要の日本学生支援機構給付奨学金及び授業料・入学料の免除又は減額の支援を受けることができます。

また、経済的理由により授業料の納付が困難で、学力優秀と認められれば、授業料徴収猶予の申請が行えます。詳細は別途ご案内いたします。

なお、本科１～３年生は、原則として「就学支援金」制度により助成が行われます。

ご不明な点がございましたら、学生課学生係（０５５－９２６－５７３４）にお問い合わせください。

## 各種奨学金について

### 令和５年度に募集が行われた主な奨学金

| No. | 奨学金名 | | 対象学年 | 応募資格 | 金　額 | 返還 | 募集時期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 【貸与型】<br>日本学生支援機構奨学金 | 第一種（無利息） | 全学年 | 経済的理由により修学に困難がある優れた学生 | 月額１万円～５万１千円（入学年度、通学形態（自宅通学・自宅外通学）によって定められた２種類の額のいずれかを選択する） | 要 | ４月<br>９月 |
| | | 第二種（有利息） | 本科<br>４・５年生<br>専攻科生 | | 月額２万円～12万円（１万円単位で貸与額を選択） | | |
| 2 | 【給付型】<br>日本学生支援機構奨学金 | | 本科<br>４・５年生<br>専攻科生 | 学ぶ意欲があり、以下のいずれかの区分に該当する者<br>【第Ⅰ区分】申請者と生計維持者の市町村民税所得割が非課税であること<br>【第Ⅱ区分】申請者と生計維持者の支給額算定基準の合計が100円以上25,600円未満であること<br>【第Ⅲ区分】申請者と生計維持者の支給額算定基準の合計が25,600円以上51,300円未満であること | 月額５千９百円～３万４千２百円（国立高専の場合）<br>※家計区分・在学中又は進学先大学等の設置者（国公立、私立）・通学形態（自宅通学、自宅外通学）により決まる | 不要 | ４月<br>９月 |
| 3 | 天野工業技術研究所奨学金 | | 本科５年生 | 第５学年に在学している学生で、人物、学業ともに優れ、かつ、経済的理由により修学が困難と認められる者のうち、以下の基準を全て満たす者<br>①第４学年の学年末の学業成績が所属学科内の４分の１以内である者<br>②直近３年間において懲戒処分を受けていない者<br>③奨学金給付の前年度の後期授業料免除において授業料の全額免除を受けた者または奨学金給付の前年度に日本学生支援機構給付奨学金を受給した者 | 年額24万円 | 不要 | ４月 |

| No. | 奨学金名 | 対象学年 | 応募資格 | 金　額 | 返還 | 募集時期 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 4 | 公益財団法人ウシオ財団奨学金 | 本科５年生 | 専攻科への進学の意思が固く、奨学生候補者としてふさわしい者 | 月額６万円 | 不要 | ４月 |
| 5 | 静岡県高等学校等奨学金 | 本科<br>１～５年生 | 保護者が静岡県内に居住しており、以下のいずれかに該当する世帯の者<br>①生活保護を受給している<br>②市町民税が非課税になっている<br>③市町民税が減免になっている<br>④世帯全員の収入合計が生活保護基準額の1.5倍以下である | 自宅通学：<br>月額１万８千円<br>自宅外通学：<br>月額２万３千円 | 要 | ４月 |
| 6 | あしなが育英会奨学金 | 本科<br>１～３年生 | 保護者等が、病気や災害もしくは自死等で死亡したり、それらが原因で著しい後遺障害を負い、教育費に困っている家庭の学生 | 月額３万円 | 不要 | ４月 |
| 7 | 公益財団法人エンケイ財団奨学金 | 本科<br>４・５年生<br>専攻科生 | 以下の条件を全て満たす者<br>①該当年度に本科４年生、５年生、専攻科１年生<br>②前年度学年末成績が上位1/2以内の者<br>③直近３年間に懲戒処分を受けていない者 | 月額２万円 | 不要 | ４月 |
| 8 | 川村育英会奨学金 | 本科３年生 | 以下の条件を全て満たす者<br>①生計を一とする家族の年間収入（祖父母の年金収入は除く）が500万円以下<br>②成績証明書（前年度学年末時点）記載の学業成績に占める、Ａ評価の割合が50％以上 | 月額２万円 | 不要 | ４月 |
| 9 | 公益財団法人タミヤ奨学会奨学金 | 本科５年生 | 以下の条件を全て満たす者<br>①国内の４年制大学に進学する者<br>②学業・人物ともに優秀かつ健康な者<br>③経済的理由から就学が困難な者<br>④応募時の現住所が静岡県内である者<br>⑤兄弟姉妹がタミヤ奨学金を受給していない者 | 月額２万５千円 | 不要 | ９～10月 |
| 10 | 公益財団法人スズキ教育文化財団大学奨学金 | 本科５年生 | 以下の条件を全て満たす者<br>①４年制以上の大学に進学予定の者<br>②向上心が強く、学業、人物とも優秀かつ健康であって、経済的理由により修学に専念出来ない者<br>③大学入学後、給付、貸与を問わず他のいかなる奨学金も受給しない者 | 月額５万円 | 不要 | ６月 |
| 11 | 沼津中央ライオンズ基金奨学金 | 本科<br>１・２年生 | 以下の条件を全て満たす者<br>①沼津市に保護者と共に居住している者（ただし、寮生の場合は出身が沼津市内であれば可）<br>②品行方正、学業優秀又は一芸に秀でその道で将来を嘱望されている者で、かつ経済的援助が必要と認められる者 | 月額１万５千円以内 | 不要 | 11～12月 |
| 12 | 熱海市育英事業奨学金 | 全学年 | 以下の条件を全て満たす者<br>①保護者が熱海市内に居住している者<br>②翌４月に本校に在学している者又は大学（専攻科を含む）に進学する者<br>③経済的理由により修学困難な者<br>※その他学力・所得要件有り | 本科１～５年生：月額１万９千円以内<br>専攻科生・大学生：月額４万４千円以内 | 要 | 12～１月 |

※奨学金募集の有無・募集時期は、年度によって異なる場合がありますので、ご確認願います。

※申請者全員が採用されるとは限りません。

※上記以外にも、地域で奨学金の募集を行っている場合があります。詳しくは、お住まい地域の自治体へお問い合わせください。

## 令和6年度行事予定表

### 2024年

**4月**
入学式・入寮式
始業式・対面式・健康診断
クラブ紹介
１年合宿研修
２～４年クラス懇談会

**5月**
１年クラス懇談会
スポーツ大会・学生総会
寮祭
専攻科推薦選抜
前期中間試験

**6月**
２年・３年キャリア教育
専攻科学力選抜
東海地区高専体育大会（～７月）

**7月**
前期末試験（～８月）

**8月**
一日体験入学
夏季休業（～９月）

**9月**
１～４年保護者懇談会
寮生リーダー研修会
２年・４年研修

**10月**
全国高専ロボットコンテスト東海北陸地区大会
体育祭・学生総会
高専プログラミングコンテスト
２年・３年キャリア教育
防災訓練
文化講演会

**11月**
学科説明会
高専祭
全国高専ロボットコンテスト全国大会
後期中間試験

**12月**
３年インターンシップ企業説明会
専攻科入学説明会
冬季休業（～１月）

### 2025年

**1月**
推薦選抜入試
専攻科２年研究発表会

**2月**
学年末試験・専攻科後期試験
学力選抜入試
専攻科１年学外実習最終報告会
卒業研究発表会
終業式

**3月**
卒業式・修了式

## 意見箱について

本校では、より良い環境の下で、良質な教育を提供することに努めており、それには、保護者及び学生の皆様から寄せられる「声」は非常に重要なものです。そこで、本校の学校運営に関する課題・問題点を早期に把握し、その改善に資することを目的として『沼津工業高等専門学校意見箱』を設置しております。皆様からの学校運営に関する率直なご意見、ご要望、ご指摘等ございましたら、下記メールアドレス宛にお寄せください。

メールアドレス：ikenbako@numazu-ct.ac.jp

**※注意事項**

(1)　ご意見等に対し、回答を要する場合は、学生所属クラス・保護者氏名または学生氏名を明記してください。匿名メールにつきましては、受付・調査等は行いますが、原則として回答はいたしません。
(2)　ご意見等をお寄せいただいた方の不利益にならないように取扱います。（ただし、虚偽の通報、他人を誹謗中傷する通報、その他不正を目的とする通報の場合を除きます）
(3)　意見箱は週１回程度チェックします。
(4)　受信メールの内容が高専機構に関するもので、高専機構の「公益通報の処理等に関する規則」に規定する通報に該当する場合には、当該規程により取扱います。
(5)　公開が必要と認められる事案については、その結果を公表する場合があります。

「沼津高専だより」に関するお問い合わせ
広報室出版・展示部会（事務担当：総務係）
Tel：055－926－5712　　E-Mail：soumu@numazu-ct.ac.jp

**沼津高専サテライトオフィス（N-com）**

2022年11月より、学生も自習等で利用できるようになりました。
利用にあたっては申請が必要になります。
詳しい利用方法については右記のQRコードよりご確認ください。

学生利用案内
（沼津高専ウェブサイト内掲載）

## 沼津高専公式SNSアカウントを開設しました

XとInstagramに沼津高専公式アカウントを開設しました。
各種情報を発信していきますのでご覧ください。

Xはこちらから

Instagramはこちらから